

2021年度 卒業論文 2022/01/13 17:30

# コロナ禍および収束後における学生の 希望する授業形態に関する実態調査

大阪産業大学 デザイン工学部 情報システム学科  
情報教育システム研究室

18H020 岡本拓久



# コロナ禍および収束後における学生の希望する授業形態に関する 実態調査

18H020 岡本拓久

## 1 はじめに

2021 年度でどれだけ大学がリモート授業を実施する予定なのか、大学に通うことのできない学生はどの程度なのか。文部科学省が 2021 年の 3 月 19 日から 3 月 31 日の間で調査した 2021 年度前期における対面・遠隔授業の実施方針の統計 [?] によると、前期は全国の国公立大学（短期大学を含む）・高等専門学校を含む全 1,064 校における調査で、半分以上を対面授業とする予定とした大学等は 1,036 校（約 97.4 %）を占め、半分以上を対面授業とし、遠隔授業と併用する予定とした大学等は 649 校（60.9 %）という結果である。対面・遠隔授業を併用するが、全体の半分以上を対面授業で行う予定とする大学のうち、約 6 割は学部や学年によって授業形態に差があると回答した。昨年、一昨年までとは違う状況が本学科<sup>\*1</sup>の学生にどのような影響を及ぼしているのかの調査を行った。

## 2 目的

本研究の目的は、コロナ禍で実施された非対面授業が学生の学習意欲や生活習慣にどのような影響を与えたのかを調査するとともに、1 年間の非対面授業を主体とした授業形態を経験した学生はどのような授業形態を望むのかを調査することである。COVID-19<sup>\*2</sup>の拡大に基づく、大学側の判断および、昨年度と今年度前期授業が非対面授業を主体とする状況の影響を多方面から考えた。影響は“講義の質や取り組みやすさ”“理解度”“私生活や受講環境”の 3 つと考える。調査する上で学生に聞くことを明確化し、内容にまとまりを持たせるとい理由で仮説が必要と考えた。

## 3 検証結果

検証には Google フォームを用いた。仮説を基に作成したアンケートを 18H~21H の学生に任意で回答していただいた。アンケートの回答期間は 7 月 26 日から 9 月 18 日とした。結果としては仮説と相違することは少なかった。

## 4 まとめ

仮説を、“人脈が広がらない”“非対面授業は快適”“質問はしやすいが回答の質が悪い”“やる気が低下してそう”“講義、試験、課題の観点から見て単位の取りやすさが大きく変化する”とした。アンケートの結果としては、“同学年の人脈の広がりには影響は少なく、新たに友人はできているが親密度はあまり高くない。また大学への登校が少ないため、他学年との交流は少なく、人脈は広がりづらい”“非対面授業の受講環境に多くの学生が快適と感じている。また精神的な受講環境も多くの学生が快適に感じているようだ。しかし 3 割程度の学生は拘束感や孤独感を感じている。”“試験よりも課題が多いほうが単位が取りやすい”という傾向だ。“質問について、しやすさに影響はなく対面時と変わらない。昨年と比べるとしやすくなっている。回答の質は“悪くない”“やる気は変わらない、昨年と比べるとやる気が下がる要因が解消された”は仮説とは大きく異なる結果となった。

実態調査の詳細は卒業論文にまとめて掲載している。

## 参考文献

- [1] 文科省. R3 年度前期の大学等における授業の実施方針等に関する調査結果  
[https://www.mext.go.jp/content/20210702-mxt\\_kouhou01-000004520\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210702-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf)

\*1 大阪産業大学 デザイン工学部 情報システム学科

\*2 WHO での新型コロナウイルス感染症の呼称



# 目次

1	はじめに	1
2	目的	2
3	仮説の導出手順	3
3.1	KJ法	3
3.2	KJ法-ラベル化	4
3.3	KJ法-グループ化	5
3.4	KJ法-図解化	8
3.5	KJ法-文章化(短文化)	12
3.6	KJ法-文章化	22
4	仮説	33
5	検証	34
6	仮説に沿った結果と考察	35
6.1	人脈が広がらない	36
6.2	非対面授業は快適	38
6.3	質問はしやすいが質が悪い	45
6.4	やる気が低下してそう	47
6.5	講義、試験、課題の観点から見て単位の取りやすさが大きく変化する	49
6.6	今後の授業形態	53
7	まとめ	54
8	今後の課題	56
付録A	付録1	59
A.1	アンケートを始める前の注意書き	59
A.2	アンケート本文	59

# 1 はじめに

文部科学省が2021年の3月19日から3月31日の間で調査した2021年度前期における対面・遠隔授業の実施方針の統計 [1] によると、前期は全国の国公私立大学（短期大学を含む）・高等専門学校を含む全1,064校における調査で、半分以上を対面授業とする予定とした大学等は1,036校（約97.4%）を占め、半分以上を対面授業とし、遠隔授業と併用する予定とした大学等は649校（60.9%）という結果である。対面・遠隔授業を併用するが、全体の半分以上を対面授業で行う予定とする大学のうち、約6割は学部や学年によって授業形態に差があると回答した。昨年、一昨年までとは違う状況が本学科\*1の学生にどのような影響を及ぼしているのかの調査を行った。

第2章では本研究の目的について述べる。第3章で仮説の導出過程を述べる。第4章では本研究の仮説について述べる。第5章では検証方法について述べる。第6章では仮説に沿った結果と考察を述べる。第7章には研究のまとめ。第8章には今後の課題についてまとめる。

---

\*1 大阪産業大学 デザイン工学部 情報システム学科

## 2 目的

本研究の目的は、コロナ禍で実施された非対面授業が学生の学習意欲や生活習慣にどのような影響を与えたのか、また、1年間の非対面授業を主体とした授業形態を経験した学生はどのような授業形態を望むのかを調査することである。COVID-19<sup>\*2</sup>の拡大に基づく、大学側の判断および、昨年度と今年度前期授業が非対面授業を主体とする状況の影響を多方面から考えた。影響は“講義の質や取り組みやすさ”、“理解度”、“私生活や受講環境”の3つと考える。調査する上で学生に聞くことを明確化し、内容にまとまりを持たせるという理由で仮説が必要と考えた。調査にはアンケートを用いる。仮説を基にアンケートを作成し、調査を行い、調査結果を基に検証する。

---

<sup>\*2</sup> WHO での新型コロナウイルス感染症の呼称

### 3 仮説の導出手順

KJ法を用いて、ラベルとして書き出した項目をどのようにして仮説として導出したのか、その手順を記す。

#### 3.1 KJ法

ブレインストーミング（以下「BS」と略す）でラベル化された多くの意見やアイデアをグループ化し、論理的に順序立てて問題解決の筋道をあきらかにしていく手法。無作為に集められた多くの情報に対して「ラベル化⇒グループ化⇒図解化⇒文章化」の順にプロセスに沿うことで情報同士の関係性を視覚化し、本質的な問題や解決法の発見、アイデアを創出することができる。収束的帰納法の中では最も代表的な技法とされているKJ法の順序を図1に示す。



図1 ブレインストーミング（以下「BS」と略す）以降の仮説を立てるまでのKJ法のプロセス。左から順に進めることで的確に情報の整理、分類ができ、簡潔な導出が可能

### 3.2 KJ法-ラベル化

BSによって対面と非対面の“メリット”、“デメリット”、“中間”等の項目を書き出した。対面は115個、非対面は127個のラベル\*3ができた。“中間”には“メリットともデメリットとも言えない”もしくは“人によってメリットにもデメリットにもなる”ラベルが含まれる。BS後のラベル一覧を図2に示す。メリット、デメリットともに非対面が多いと予想していたが、どちらも対面と非対面で大きな差はなかった。

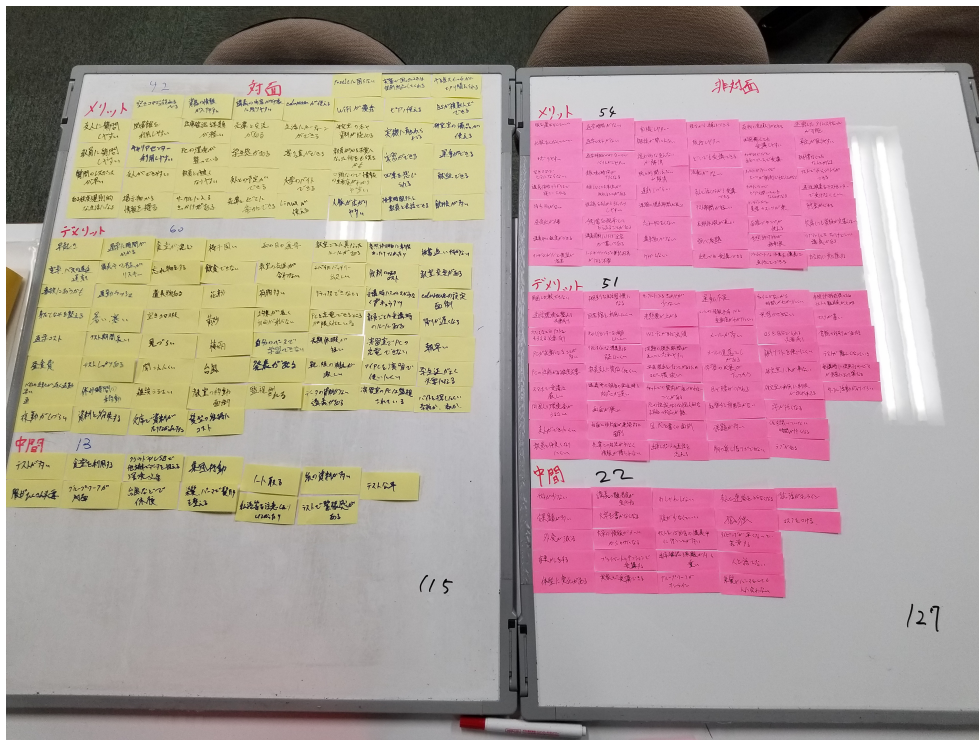


図2 左が2019の対面期間と今年度前期までの対面授業の影響をラベルとして書きだした結果。右が昨年と今年度前期までの非対面授業の影響をラベルとして書き出した結果。

\*3 BSによって出した項目

### 3.3 KJ 法-グループ化

グループ化するために関連性のある物をまとめて表札をつける。表札は何を意味しているグループなのかを理解できないといけないので、“わかりやすい表現を使用する”、“内容を抽象化しすぎない”等を守りつつ、まとめられたラベルの要約をつけることが条件である。それに沿ってすべてのグループが 10 個前後になるようにする。最初から大きなグループにまとめると正しい解釈ができなくなる。そのため、はじめは小さいグループから作っていき、グループ同士をまとめて大きなグループを作る。また、どこのグループ化にも混じれない物については最後まで放置する。グループ化の目的は分類ではなく連結である。

グループ化は 2 回行った。2 回目のグループ化の表札のみを簡条書きにしたものを表 1 に示す。1 回目の対面では 48 個、非対面では 51 個の表札をつけた。1 回目の対面、非対面のグループ化を図 3 に示す。2 回目の対面では 14 個、非対面では 16 個の表札をつけた。2 回目の対面、非対面のグループ化を図 4 に示す。また、まとめたグループのさらなる関連性を示したものを図 5 に示す。

表 1 グループ化した結果の項目

対面	非対面
・通学	・時間がある
・研究、研究室	・身だしなみ
・人間関係	・生活
・習慣	・金
・情報源	・就活
・空きコマ、休み時間	・人との関りが減る
・アルバイト	・メール
・荷物	・単位取得の難易度
・出費	・施設が使いにくい
・質問	・テスト
・大学の設備	・課題
・学生感がある	・不真面目
・講義	・受講環境
・テスト	・気軽に受講できる
	・講義で困る
	・復習しやすい



図3 左が非対面、青色のラベルは小グループにまとめた際の表札。右が対面、オレンジ色のラベルは小グループにまとめた際の表札



図4 左が非対面、右が対面、緑色のラベルは小グループを大グループにまとめた際の表札

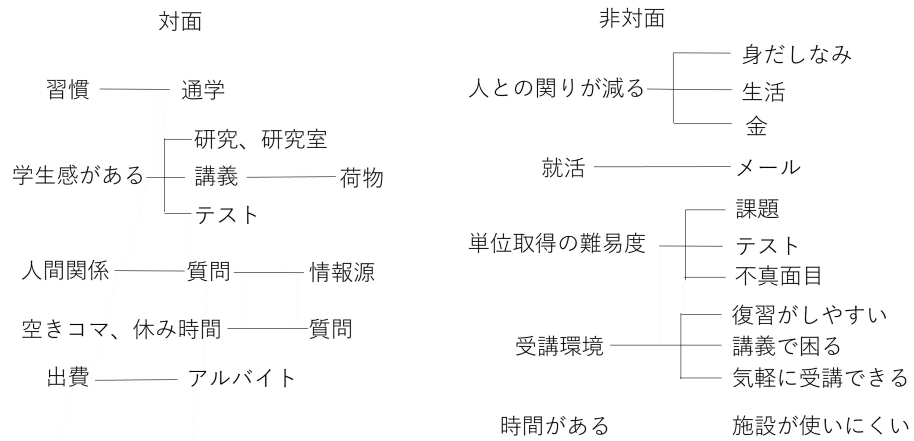


図5 KJ法-グループ化直後の項目。関連性があると仮定した項目を結んだ線。左が対面、右が非対面。

### 3.4 KJ法-図解化

グループごとに全部のラベルを見返し、グループは異なるが、関連性のあるラベルのフレームワークを行う。この作業はグループ化とは反対に大グループから小グループの順に進めていく。配置と矢印の方向に注意し、視覚的にわかりやすいようにする。フレームワークを図6に示す。

#### 1. ツリー型

要素をレベル的に分類し、階層状に示すパターン。論理的な構造を示す。

#### 2. サテライト型

要素の相互依存関係を示すパターン。すべての要素が必要であり、主従関係がなく各々が対等の関係性を持っている。

#### 3. フロー型

時間的な流れを示すパターン。左から右、上から下の順に進行する。

#### 4. サイクル型

循環的な流れを示すパターン。何度も循環を繰り返すとき。

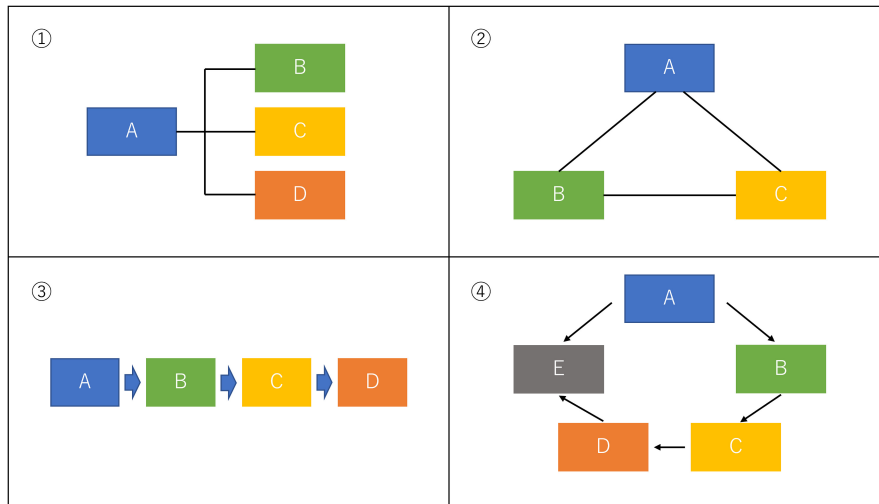


図6 KJ法の図解化の際に用いるフレームワークの種類。番号を順に、ツリー型・サテライト型・フロー型・サイクル型。各型の詳しい説明は下に示す。

図解の際に使用する矢印の意味を図7に示す。

意味	図		
影響の順序	ラベル	→	ラベル
交換/往復	ラベル	↔	ラベル
つながり	ラベル	—	ラベル
対立/強調	ラベル	⇔	ラベル
過去/予定	ラベル	-----▶	ラベル
影響の強さ	→ ラベル	→ ラベル	→ ラベル

図7 図解化の際に使用する矢印の一覧。影響の強さの矢印はその矢印の太さが強さを表す。

矢印のほかに「原因・結果・相関・類似・反対」の言葉を書き込み、視覚的にわかりやすくする。



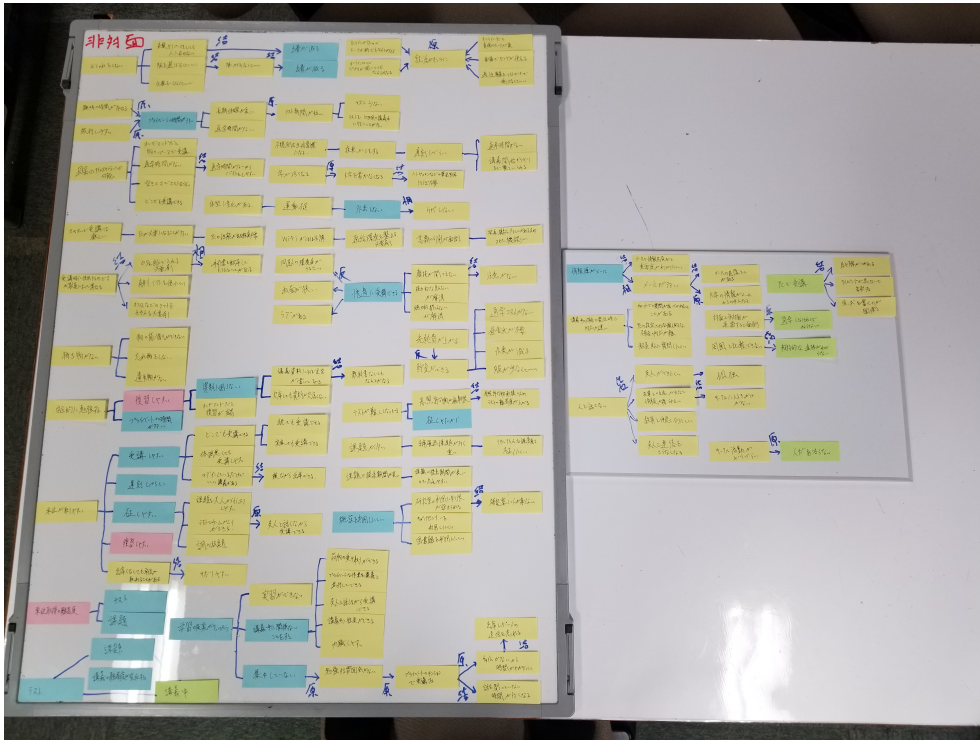


図9 非対面の図解化の図。グループ数は合計30。緑は図解化の途中に追加したもの、ピンクと青は表札、黄色はラベルを表す。

### 3.5 KJ法-文章化（短文化）

図解化後のグループを短文にする。階層的な図解化になっているため関係性がわかりやすく、まとまりのある文章にするよう心掛けた。関係性を考えた時に付箋にはない内容も関連性を感じれば書き加える。

短文化の文章には番号を割り振る。図解化の階層に沿って階層的な番号を割り当てる。対面の“1”と非対面の“1”は違うものを指す。

#### 3.5.1 短文化-対面

対面の短文化を下記に記す。

1

学生の朝は時間割にもよるが早い、主に身支度に時間がかかるのと、通学に時間がかかるためである。個人差はあるが身支度については男性よりも女性のほうが時間がかかり、通学については学校の近くで生活する下宿生よりも実家から通う学生のほうが時間がかかる。また通学手段も公共交通機関を用いる学生のほうが時間がかかる。

■1-1 学校生活では一般的にたくさんの服が必要になる。毎日同じ服を着ていると、不潔や服に無頓着といった印象を持たれかねない。多くの学生は何パターンかシーズンごとに服の組み合わせを決めてそれをローテーションを組んで着用している人が多いと思われる。服には流行や飽きが来るため流行に敏感であったり、飽き性だとさらに多くの服を持つことになるだろう。また服は消耗品であるため頻度にもよるが頻繁に着ていると消耗して形が崩れたりしてくる。

■1-2 身だしなみに気を使う人は髪型も気に掛けるだろう。人によって頻度は変わるがカットは誰しも行うし、人によっては染髪をしたり、パーマを当てたりする。髪型や髪色を維持しようとする場合は男性の場合、1か月に1度は手入れを行うだろう。髪が伸びていく変化を楽しむ場合でも男性の場合、多くは4か月に一度の手入れは行うだろう。（女性は不明）髪型の手入れは何パターンかある。自分で切る、これはカットと染髪はできるだろう、素人クオリティにはなるが、もしくは床屋や、美容院を利用する。こちらは前者と比べてかなり割高になる。日常的な髪型の手入れではワックスやヘアオイル、ヘアアイロン、シャンプー、リンスなどに気を遣うだろう。人によっては髪留めや髪飾りを使用することもある。個人差はかなり出てくるが髪にかかるコストは大きい。

■1-3（番外） 身だしなみでは化粧をする人もいるだろう。詳細は不明

2

部活動やサークル、体育系の授業があるため日常的に運動をしている学生は少数派であると感じる。それらをしていない学生たちの日常的に行う運動は歩くことである。主に通学やキャンパス内の移動である。

■2-1 日常的によく歩くため靴の消耗が激しく、靴を買い替える頻度は高いだろう

3

通学がつかく感じる要因は通学手段によって異なる。公共交通機関では利用者の多い時間帯、いわゆる通勤ラッシュに巻き込まれたり、公共交通機関を用いる学生は遠くに住んでいると考えられるため、通学に時間がかかる。またダイヤが決まっているため急ぐことができない。ゆえに通学にかかる時間がほぼ固定される。学校で必要になるものは個人差があるが多くはバックパックがいっぱいになる程度の荷物を持ち歩く学生が多いだろう。ゆえに荷物が多く通学で疲れる。ほかの徒歩、自転車、バイクで通学する学生は猛暑や雨天などの天気の影響を大きく受ける。また事故や渋滞などを理由とする遅刻は認められない。加えてバイクは渋滞などの道路状況や事故と隣

り合わせの状況によるストレスを感じる。

■3-1 学生の荷物は必須なもの、快適に過ごすために持っておきたいものがある。

必須 その日に使う教科書、財布、鍵、筆記用具、スマートフォン、

一部必須 PC、定期券、バイト道具、電卓、雨具

快適にする モバイルバッテリー、クリアファイル、バインダー、イヤホン、個人的読書用の本、携帯ゲーム機、USB メモリ、化粧品、マスク、トランプ、ティッシュ、ハンカチ、個人的な勉強用の参考書、充電器

4

遅刻の理由で全ての通学手段で言えるのは忘れものである。ただし忘れ物の場合は物の重要度によってはそれを許容し、遅刻しない選択をする場合がある。公共交通機関の場合は悪天候や事故を原因に遅刻する。ただしこの場合は正当な遅刻として認められる。徒歩、自転車、バイクの場合は事故や、乗り物のトラブルが原因となる。この場合は正式な遅刻としては認められない。

■4-1 公共交通機関の遅延や運休の原因は雨や、雪、台風のような天候に起因するものが多い。大阪の場合は雪は少なく、雨は梅雨、台風は7-10月に多い。この場合はたまに休校になることもある。

5

時間割と通学にかかる時間によるが自宅の近くでアルバイトをしている場合は帰宅に時間がかかるため帰りが遅くなる。そのため夜勤がしづらい。学校のそばでアルバイトをしている場合は学校の無い週末や長期休暇の出勤に時間がかかってしまう。学校の近くに住む下宿生を除くとほとんどの学生はバイト先を学校の近くか、家の近くかで悩む。

6

通学に時間がかかるため帰りが遅くなり、また起床の時間が早くなる。そのためバイトの出勤が遅くなり、退勤が早くなる。結果、労働が可能な時間が短くなり、それが原因でアルバイトの時間が合わず雇ってもらえなかったり、給料が必要額に満たなかったりする。

7

昼食や外食、飲料や通学にかかるコスト、そのほか生活費など様々なところから出費がある。また購入するものも高校生以前に比べると高額になっているため大学生の出費は多い。

■7-1 出費が多いため多くの大学生はアルバイトをする。そこで先輩や後輩、上司などの人脈が広がっていく。

8

時間割の都合上、空きコマは発生する。その暇な時間を持参したもので遊んだり、同じ時間に空きコマの友人と会話をする、大学が募集しているアルバイトをする図書館を利用して読書をしたり、献血や、食堂を利用する。

■8-1 友人との会話の中で飲み会や遊びに行く予定を決めたり、帰りの寄り道を決めたりする。話す人は友人に限らず友人の友人や同じ趣味を持つあまり親しくない人などと会話する。それによって人脈が広がっていく。質問をするとわかるものであればすぐに回答してくれる。場合によってはわかりやすく説明してくれたり、代わりにやってくれたりする。

■8-2 食堂の利用を考える学生は多いため食堂が混む、また食堂を利用すると何かしら飲食するので出費が増える。

9

講義やゼミ、サークル、部活動、勧誘などで先輩との交流がある。そこでサークルや部活動の勧誘や、単位の取りやすい講義や、課題の質問などの情報がもらえる。

10

先輩と一緒にゼミに参加できることで研究の質問ができたり、研究室の備品の利用についてのルールや注意事項を聞ける。

11

通学で外出することで気温の変化や、動植物の変化を感じることができ、四季の移り変わりを体感できる。

12

花粉や黄砂、教室の気温が自分と合わないなど、季節的なことが原因で講義に集中できなくなる場合と、一緒に受講している学生の雑談によって集中できなくなる。

■12-1 教室の気温は時期によって決められていて、個人のが自由に調整できるものではない。そのため暑かったり、寒かったりする。

13

講義後の休み時間に教員と質問や雑談などの会話ができる。それで教員と仲良くなることができる。教員からいい印象を持たれていると質問に対する回答が丁寧でわかりやすくなるかもしれない

■13-1 教員と仲がいいと教員が不要になったものをもらうことができるかもしれない。

14

教員ごとに受講時のルールや注意事項がある。テストの際に持ち込んでいい参照許可物の可否や条件が異なったり、テストのするタイミングや回数が異なる。出席確認の際に学生証を使用したり、毎回の授業終わりに出席確認の代わりに軽い課題を提出したり、そもそも出席を取らなかったりする。講義中の飲食、特に食事に可否や私語、内職を注意したりしなかったりする。

15

受講しづらい原因は何点かある。教室が広く、後ろの方の席に座ってしまったがために黒板やスクリーンに映された字が見えない。教員の字が汚くて見えない。教室が広く、後ろの方の席に座ってしまったがために聞こえづらい。教員の声が小さかったり、滑舌が悪くて聞き取れない。荷物が多く、一人分のスペースが限られているため窮屈で受講しづらい。演習や板書の写しで自分のノートパソコンを使用している場合は充電できなくて不便。

■15-1 黒板が見えづらいとノートを取る際に時間がかかってしまう。またノートをとることで精いっぱいになってしまいがちで自分のペースで学習できない。

■15-2 充電スペースがないのは通常の教室に限らず、演習室にもない、長時間の演習や、充電のし忘れがあるとバッテリーが足りなくなるため演習で自分のノートパソコンは使いにくい。

16

講義中は監視カメラと教員に監視されている。演習室の場合は使用している PC も監視されているため課題や答えをもらったりといった不正は見つかってしまうかもしれない。

17

教室ごとに利用する座席や飲食の可否、空調の設定に決まりがある。よく使用する演習室のような教室は説明があるが、たまにしか使用しない教室は説明がないことがあるため不便。

18

実習でわからないことがあると教員もしくは TA が個別に対応してくれる、そのためわかりやすく理解が深まりやすい。実機に触れながら行う実習ができる。実際に触りながらなので印象に残りやすく、理解が深まりやすい。

■18-1 グループワークができる、その際に初めて関わる人もメンバーにいたりするので交友関係が広がりやすい。発表をすることが多い。

19

演習室の PC は講義で使用するソフトウェアや Linux などの OS がすべてそろっている。そこには有料のサービスも含まれる。これと同じ環境を自分の PC で整えようとするとかかなり手間になり、コストもかかるそのため演習で自分の PC は使いにくい。演習で出た課題をするためにデータをクラウドに上げるか、USB メモリに保存するなどのほかの端末でデータを使用できる手段が必要になる。

20

成績を評価するための要素にテストや最終課題などがあるため出席確認課題の評価の割合が小さくなる。そのため課せられる課題が軽い。出席確認課題は授業の余った時間で行い、講義終了までに提出するため短い時間で取り組めるよう簡単なものになっている。

21

講義中に受け取る資料が紙であることが多い、毎回の講義でその回で使用する分だけ配布される。そのため欠席すると資料にぬげができる。回を重ねると量が増えてかさばり、順番がばらばらになる。紙の資料なので紛失することもよくある。配布資料が参照許可物になることが多いため紛失はテストの点に直結する。

■21-1 データで資料が配布されることもある。データを紛失しても再度ダウンロードできるため困らない。かさばらないし、整理しやすい。

22

授業中は拘束される。その日最後の講義が終わるまでは拘束される、拘束中はできることが制限されるためリラックスできない。教室の椅子が硬くて快適ではない。

23

大学の LEONET Wi-Fi は利用者が多く、通信が安定しないことが多々ある。eduroam は速度が速く、安定しているため優秀。フリー Wi-Fi ではないのでセキュリティ面も良い。しかし eduroam の設定は少しややこしくて面倒。

24

資格取得を目標とした講義や、講義中に有用な資格を紹介してくれる教員がいるため資格の情報が入りやすい。また資格取得時は受験料を大学が負担してくれる資格もある。教室変更がたまにある。連絡がメールで来るため定期的に確認する癖をつけておかないと気づかない。

25

テストをテスト期間にする講義が多いため、テスト期間が長く設けられている。また台風などで休校があった場合はずれ込む。これらによって長期休暇が短くなる。

26

研究室の備品である PostIt や本、資料などが使える。ただし使用にはルールが設けられていることある。

27

対面の講義だと、話す教員の圧や真剣さが伝わるため情報の重要度がわかりやすい。講義とは関係のないことが監視されているためやりづらかったり、やることが無く、暇を持て余していたりするのでなんやかんや話を聞く。

28

チャイムで休憩時間と講義中との気持ちの切り替えができる。チャイムがあると今が何の時間なのかがわかりやすい。

29

テストはカンニングなどの不正が無いように監視されているため、限りなく公平。監視されていたり、自身の実力で挑むため緊張感がある。

30

教室や施設を利用した際に物を紛失することがある。紛失したものは捨てられたり、誰かに拾われたり、どこかの事務室に届けられたりする。遺失物が届けられる場所が何か所があるため、確認しに行くときに不便。

■30-1 施設に張り出されている掲示物から、イベントや資格の情報を得ることができる。

31

通学時間から逆算して起床時間が決められ、そこからさらに就寝時間が決められる。それが習慣になるため、規則的な生活になるかもしれない。

32

学生感を感じるには演習や課題のような講義に関することや、研究を行うこと、またそれらを行う上で広がる交友関係によるものである。

### 3.5.2 短文化-非対面

非対面の短文化を下記に記す。

1

外出をしなくなるため人に合わなくなる。そのため身なりに気を使わない。人に合わなくなるため、他人の印象を気にして染髪やパーマをする人はしなくなり、出費が減る。服のレパートリーが少なくて済む。また着用する頻度が下がるため長持ちする。そのため服にかかる出費が少なくて済む。

2

インターンシップや企業説明会、面接がオンラインで行われることがある。

■2-1 就活のスーツは黒の無地が好ましいが就活イベントや選考がオンラインで行われる場合はスーツに柄が入っていたとしても相手にわかりにくい。

■2-2 就活ではピアスの穴が開いていると印象に影響があることがあるようだが、オンラインだと相手に見えない。

■2-3 就活はジャケットの着用が望ましい、そのため夏場はかなり暑い、オンラインだと快適な室温で臨むことができる。

■2-4 オンライン面接だとあらかじめ準備しておいた応答のキャンペを見ることができるため、面接の難易度が少し下がる。

■2-5 コロナ禍で適性検査の受験方法が自宅で良いことが多いためわざわざテストセンターを利用しなくていい。

3

長期休暇が長い、通学をしないため通学時間が無い、空きコマや昼休みなど講義はないが学校に拘束される時間がない、これらの要因で拘束される時間が短くなるため、プライベートなことに使える時間が多い。

■3-1 テストを15回目の講義中に行うことが増えた。講義の評価項目にテストが無い講義が増えた。そのためテスト期間中のテストの数が減少した。これによってテスト期間が短くなっている。そのため長期休暇が長い。

■3-2 プライベートの時間が増えるため、ゲームや読書、旅行などの趣味に使える時間が増え、取り組みやすい。

4

講義はオンデマンドの形をとっているものが多く、課題の提出期間も長く設けられているため講義を受けるタイミングを柔軟に選ぶことができる。通学にかかる時間が無いため早く起きる必要がない。そのためバイトを早い時間から遅い時間まで出勤することができる。空きコマの時間でも拘束されることが無く、自由に過ごすことができる。通信環境さえあればどこでも受講することができるため、帰省中や旅行中でも受講することができる。

5

通学時間が無いため講義開始ギリギリの時間まで寝ていられる。そのため遅刻しづらい。起きる時間が遅くてもいいため、夜更かしをしがちになる。そのため不規則な生活習慣になる。

6

大半の講義はPCで受講し、講義資料はデータで配布される。配布された資料に直接入力していくような講義が多いため文字を書かなくなる。そのため文字が汚くなる。手書きで書くことが少なくなるため受講する際にノートや筆記用具はほとんど使わなくなる。

7

通学や部活動、サークル、アルバイトなどの外出する要因が少なくなったため、運動しなくなる。趣味に使える時間が増え、その時間を運動に充てれば、体力や筋肉がつき、健康的にはなるが、運動をしなかった場合は体力や筋力が低下したり、肥満体型になったりする。外出が減るため怪我をする頻度が下がるかもしれない。

8

教員画面のウィンドウ、講義資料、自分の作業ウィンドウを表示して受講するためある程度画面が広くないと不便。そのため画面の小さいスマートフォンだけを使用した受講は苦勞する。複数のウィンドウを同時に開いたり、会議アプリを使用するため、それらをスムーズに処理できる性能を持ったPCが必要になる。

9

講義資料のダウンロードや、講義の視聴をするため受講するにはある程度整った通信環境が必要になる。キャリアの通信では料金がかさばるためWi-Fiが望ましい、ほぼ必須と言ってもいい。

10

モニターが小さいため講義資料が紙で欲しかったり、図形を手書きで書き込み、写真を撮って提出する課題があるためコピー機があると便利。

11

自分のPCに受講する際に使用するツールなどの環境を整えなければならない。Microsoft office や、無料での使用は利用の制限があるツールを使用する。条件付き無料サービスは使いにくいことがある。有料サービスを使用しなければならないこともある。講義で使用するツールは教科や教員によって異なるため、種類が多くなる。講義を配信するサービスも教員によって異なる。

12

対面授業とは違い、見やすい、クリアに聞こえる環境で配信された講義を見るため、目が悪くて見えないや耳が悪くて聞こえない、雑談がうるさくて聞こえないことが無く、受講しやすい。雑談が無いので集中できる。また学生の注意で授業がさえぎられることが無い。

■12-1 同居人の生活音が聞こえたり、同居人が干渉してきたりする。多くの人はノートパソコンで受講する。講義中は講義の配信画面、講義資料、作業ウィンドウを開くためノートパソコンのモニターでは小さい。通信環境が整っていないとラグが発生して受講しづらい。

13

自室で受講する場合は講義に必要なものはその部屋にあるため忘れ物をしない。大学に登校する時より必要になる物の数が少ない。自室の場合は物を失くすこともない。一人で受講するので教科書や筆記用具を借りることができない。代わりに教科書は写真で送ってもらうことで解決する。

14

対面時と比べて、通学にお金がかからない、実家暮らしの場合は毎日の昼食費が減る。友人と遊ぶ予定が少ないので外食や遊びに使う出費が減る、外出が減るため服が少なくて済む。そのため出費がかなり抑えられ、貯金ができる。対面時と比べ、出費が増える要因は、自宅を使用している時間が増えるため光熱費が上がる。

15

通学時間が無かったり、空きコマの時間は好きなことができたり、オンデマンドで受講できる講義があり、それらは好きな時間に受講できる。そのため好きなことに使える時間が多い。また復習がしやすい。そのためやる気のある学生は自主的に勉強する。勉強をする学生は講義の復讐や課題のクオリティを高めるため、成績が良くなる。勉強をする学生は資格取得のための勉強をする。自主的に勉強をしない学生と、する学生との差が対面時より広がる。

■15-1 講義資料にその日の講義内容の全容や課題の概要が書いている。講義資料はダウンロードし、期限はかなり長く設けられているため資料が欠けることが無い。資料に困ることが無く、オンデマンドで受講できる講義はいつでも講義を見返すことができるため、復習がやりやすい。

■15-1-1 講義資料に全容が書いていることが多いため教科書を購入しなくても何とかなる講義がある。

16

非対面授業は様々な理由により単位がとりやすいと言える。受講の難易度が低く受けやすい、通学時間がないため遅刻しづらい、受講中を監視されないため不正しやすい、資料や環境が整っているため復習がしやすい。教員が講義資料の内容を話しているだけの講義が一定数ある。それらの講義は出席しなくても課題さえ出していれば単位が取れるため、さぼりやすい。

■16-1 受講しやすい。通信環境と端末さえあればどこでも受講することができるため、出先や実家に帰省中でも受講できる。通学せずに受講できるため、多少であれば体調が悪くても受講できる。受講中に作業をほとんどせず、聞いているだけの講義が多く、それらは受講中に寝ることができる。

■16-2 不正しやすい。課題をデータで扱うため友人からもらったりあげたりしやすい。テストがオンラインの場合はテスト中に友人と一緒に集まったり、オンライン通話をつなぎながら受けることができる。テストがオンラインの場合は調べながら受けられる。

17

テストがオンラインの場合はテスト中に自由に調べることができる。そのため参照許可物は無制限になっていることが多い。調べ放題、不正し放題の環境のため、テストの難易度が上がり、難しくなっている。

18

オンラインだとテストが実施しづらいので課題のみで評価する講義が増えた。そのため課題が多い。評価の課題の割合が増えたため出席確認課題の難易度が上がった。

■18-1 講義終わりまでに提出する課題は急ぐため、不正がしづらい。

19

課題の難易度が上がったため対面時より課題一つにかかる時間が増えた。そのため提出期間が長く設けられている。提出期間が長く設けられているため、後回しにしがち、かつ提出を忘れやすい。

20

オンライン授業が主流になり、大学に行くことが無くなった。そのため、キャリアセンターや、図書館を利用しづらくなった。「研究室では料理をしてはならない」のような利用制限があるため使いにくい。大垣研究室にコアタイムはなく、研究内容によっては自宅でできるため、ほとんど研究室に人が来ない。

21

テストを実施する講義が少なくなったが、テストの難易度は上がった。テストが実施内講義は代わりに課題が多くなり、難易度が上がった。非対面授業になり受講そのものはしやすくなかったが、単位が取得しやすくなったかどうかは人それぞれだろう。不正をする場合は難易度は下がったように感じる。まじめに受講する場合は難易度が上がったように思う。非対面授業はまじめが損をしているかもしれない。

22

講義そのものの難易度は大きく変化している、課題が増え、テストは少なくなりましたが難しくなった。講義自体は聞いているだけのものが多く、受講スタイルも自由で受けやすいものであった。

23

実習のほとんどが非対面になり、質問も以前は個別対応だったのが、今は文面、もしくは口頭での対応になった。講義中は監視されず、自由にできるため講義に関係のないことをよくする。自宅で受講する場合は気持ちの切り替えをするタイミングが無く、プライベートのテンションのまま受講するため、勉強をする雰囲気にならない。

■23-1 講義中に関係のないことをする。講義を聞き流しながら、友人と話していたり、ゲームをしたり、ほかの講義で出された課題や、講義とは関係のない勉強をしたり、荷物の受け取りをしたりする。

■23-2 勉強をする雰囲気にならないまま講義を受けたり、講義とは関係のないことしたりするため、講義内容を聞いていない時間が多くなる。チャイムが無いため気持ちの切り替えができない、またチャイムが無いと講義開始の時間がわからなくなるので遅刻や、出席レポートの送信を忘れる。

24

大学の案内や、講義の情報がメールからしか来なくなるため、メールが多くなる。

■24-1 メールが多くなると重要なメールの見落としがある。メールでの情報だとどうでもいいメールとの違いが少ないため情報の重要度がわかりにくい。

25

非対面講義はPCで受講するため、モニターを長時間見たり、椅子に座りっぱなしになる。そのため、目や腰がつかれる。講義資料の書き込みや、課題はほとんどPCで行うためタイピングが早くないと時間がかかり、講義に置いて行かれる。講義資料の書き込みの際に図や式を入れる場合は書きづらい。

26

講義中の質問は気づかれなかったり、状況がわからなかったりするため、対応が遅かったり、雑になったりする。講義中に不具合が発生し、チャットで教員に質問をしても、気づかれないことがある。気づいてもらえたとしても、PCの設定のような個人的な不具合の場合は対応が雑になり、解決しないことがある。友人に質問をしても気づかなかったり、さぼっていたりする。

27

対面の演習があり、その前後に非対面講義がある場合は非対面授業を対面で受けたり、学校で非対面授業を受けたり、時間を見つけてオンデマンドで受講しなければならない。非対面の講義を対面で受けると自由度が無く、友人とも連携ができない。

28

講義中にする課題でほかの学生の進捗や躓いているところを知ることができないため、自分の進捗が順調かどうかや、自分が躓いているところでほかの生徒も躓いているのかわからない。自分が躓いているところでほかの人も躓いているとなぜか安心する。

29

学校に行かなくなると人と話す機会が極端に減る。大学でしか合わない、話さない教員とは仲良くなりにくくなる。ゼミやサークルでしか交流のない先輩とも話す機会が減り、講義や課題の情報が得られなくなる。友人との予定が減るので友人と連絡を取らなくなり、友人の友人と仲良くなったり、グループワークでの交流が減るため友人ができにくい。すでにある人脈との交流が少なくなり、新しく人脈が広がりにくいので孤独になる。

30

人が集まらなかったり、集まれなかったりしてサークル活動がやりづらい

## 3.6 KJ法-文章化

図解化は階層的なつながりが多かったために短文化では長くわかりにくい文章になったものが多い。そのため短文を箇条書きでわかりやすい文章にしていく。その際に10個程度のグループに分ける。短文の一部が別のグループに所属しても良い。対面が10個、非対面が7個のグループができた。

### 3.6.1 文章化-対面

対面の文章化を下記に記す。

■**通学と生活習慣** 身支度と通学に時間がかかるため朝が早い。起床時間から逆算して就寝時間が決められる。それが習慣になるため、規則的な生活になるかもしれない。

- 身だしなみを整えることにかかる時間やコストは個人差がある。

#### 服

- － 毎日同じ服を着ていると不潔やおしゃれに無頓着と言った印象を持たれる。
- － 各シーズンごとに服の組み合わせを決め、それをローテーションを組んで着用している人が多い。
- － 飽き性だったり、流行に敏感な場合はさらに多くの服を持つ。
- － 着る頻度の高い服は消耗が激しいため持ちが悪い。

#### 靴

- － 通学で日常的に長い距離を歩くため消耗が激しい。
- － 服に合わせて靴も選ぶため何足か所有する。

#### 髪型

- － 男性、女性共に1か月から4か月に一度の頻度で髪の手入れを行う。
- － 手入れの内容はカット、パーマ、染髪があり、自分で行うか、理髪店を利用するかによってかかるコストは大きく変わる。
- － 日常的な手入れや、髪型を整えるためにヘアワックスやヘアアイロン、ヘアオイル、シャンプー、リンス、髪留め、髪飾りを使用する。

#### 化粧

- － 化粧をする人もいる。(詳細は不明)

- 通学にかかる時間やつらく感じる要因は通学手段や学校との距離によって変わる

通学手段：徒歩、自転車

#### メリット

- － 通学コストが極端に少ない。
- － 通学時間が短いため遅刻しづらい。
- － 悪天候でも通学時間が短いためほかの通学手段より楽。
- － 忘れ物を取りに帰りやすい。取りに帰っても遅刻しづらい。

#### デメリット

- － 行動範囲が狭いため寄り道をすると遠回りになる。

通学手段：バイク

#### メリット

- － 行動範囲が広く自由が利くため寄り道がしやすい。
- － 荷物が重たくても気にならない。

- － 忘れ物に気づくタイミングによっては取りに帰ることができる。

#### デメリット

- － 夏は暑く、冬は寒い、雨天は運転しづらく、雨具が必要になる。
- － 事故や渋滞などを理由とする遅刻は正式には認められない。
- － 渋滞などの交通状況や事故と隣り合わせの状況によるストレスを感じる。
- － 通学コストがかかる。

#### 通学手段：電車、バス

##### メリット

- － 行動範囲が広いので寄り道の幅が広がる。
- － 電車の遅延などが原因の遅刻は正式なものとして認められる。

##### デメリット

- － 学校から離れた所に住んでいるため通学に時間がかかる。
- － 利用する時間によっては通勤ラッシュに巻き込まれる。
- － ダイヤが決まっているため急ぐことができず、通学にかかる時間が固定される。
- － 事故や悪天候のため遅延や運休、運転見合わせが発生し、遅刻する
- － 個人差はあるが多くの荷物を持ち歩くため疲れる。
- － 通学コストがほかの通学手段と比べてかなり高い。
- － 忘れ物に気づいても取りに帰りづらい。

- 通学で定期的を外出することで気温の変化や、動植物の変化を感じ、四季の移り変わりを体感することができる。
- 大半の学生の日常的に行う運動は歩くことである。主に通学やキャンパス内の移動である。
  - － 部活動やサークル、体育系の講義を受講している学生は少数派だろう。

■**アルバイト** 大学生は昼食費や外食費、飲料費、通学コスト、教科書代、交遊費、通信費、生活費など様々な出費がある。大学生になったことで保護者が負担していた額を自身で支払うようになったり、高校生の時と比べ購入するものの値段が高額になる。ゆえに大学生の出費が多い。そのため多くの学生はアルバイトをする。

- 通学時間が長い学生のバイト選び
  - － 自宅の近くでアルバイトをする場合は帰宅に時間がかかるため出勤の時間が遅くなる。
  - － 学校の近くでアルバイトをする場合は学校のない週末や長期休暇の出勤に時間がかかってしまう。
  - － 翌日の起床時間が早いので遅くまで働くことができず、退勤時間が早くなる。  
上記の結果、労働時間が短くなり、それが原因でアルバイトの時間が合わず雇ってもらえなかったり、給料が必要額を満たなかったりする。
- 所得があること以外でのアルバイトのメリット
  - － 他大学の先輩や後輩、フリーターや主婦など様々な人との人脈が増える。

## ■人脈

### 同期

- 講義中の些細な質問をきっかけに仲良くなる。
- グループワークでかかわった人と仲良くなる。
- 友人の友人や、同じ趣味を持つ人と話すことで仲良くなる。

#### メリット

- － 空き時間を有意義に過ごすことができる
- － 代行を頼める。

### 先輩、後輩

- ゼミやサークル、部活動、勧誘などで先輩と交流がある。

#### メリット

- － サークルや部活動に入るきっかけになる。
- － 単位の取りやすい講義や単位の取りにくい講義をすることができる。
- － 講義や課題の質問ができる。
- － ゼミの先輩の場合は研究室の利用ルールや注意事項を聞くことができる。
- － ゼミの先輩の場合は卒業研究の雰囲気を知ることができる。

### 教員

- 講義中の質問や講義後の雑談などの会話で親しくなる。
- 研究室に配属されると話す機会が多くなる。

#### メリット

- － 教員からいい印象を持たれていると質問に対する回答が丁寧でわかりやすくなるかもしれない。
- － 教員が不要になった物をもらうことができるかもしれない。

## ■空き時間 時間割の都合上、空きコマは発生する。時間の区切りはチャイムがあるためわかりやすい。

- 持参した物で友人と遊ぶ。
- 大学が募集しているアルバイトをする。(食堂、演習室)
- 献血をする。
- 携帯ゲームや動画を視聴する。
- 食堂を利用する。

食堂の利用を考える学生は多いため混雑する。

- 友人と会話する。
  - － 会話の内容
  - － 飲み会や遊びに行く予定を決める。
  - － 帰り道の寄り道を決める。
  - － 趣味の話をする
  - － 講義や課題の質問をする。わかる物であればすぐに回答がもらえたり、場合によってはわかりやすく説明してもらえたり、代わりにしてくれたりする。

■通信環境 空き時間に課題をしたり、ゲームや動画の視聴をする学生は多い。大学構内で飛んでいる Wi-Fi のおかげでキャリアの通信を使わずにそれらができる。

- LeoNet の利用者は多く、通信が安定しないことが多々ある。
- eduroam は速度が速く安定しているため快適に利用できる。しかし設定が少し面倒。

■講義 演習や実習はメリットが何点かあるが、座学の講義にはメリットが少ない。

快適に受講できる

- チャイムで休憩時間と講義中との気持ちの切り替えができる。
- 演習室の PC は講義で使用するソフトや OS がすべてそろっている。
- 演習で出た課題をするために、ほかの端末でデータを使用できるクラウドや USB メモリのような手段が必要。
- 配布資料がデータの場合はデータを紛失しても再度ダウンロードできる。

快適に受講できない

- 花粉や黄砂でくしゃみが止まらず、集中できない。
- 教室の空調の設定は決まっているため、暑かったり、寒かったりする。
- 一緒に受講している学生の雑談で集中できない。
- 教室が広いので、黒板やスクリーンが見えづらかったり、聞こえづらかったりする。
- 教員の字が汚いため読めない。
- 教員の声小さかったり、滑舌が悪いため聞き取れない。
- 教室で充電ができないため自分の PC を使いにくい。
- 荷物が多いためスペースを取り、窮屈。
- 教室の椅子が硬い。
- 配布資料が紙の場合、もらい損ねたり、紛失したりする。

不自由

- 講義では有料のソフトを含む、様々なソフトを使用する。その環境を自分の PC で用意するにはかなりの労力とコストがかかるため自分の PC は演習で使いづらい。
- ノートをとることに時間がかかってしまい、自分のペースで学習できない。
- 授業中は拘束される。
- 一日の最後の講義が終わるまではキャンパス内に滞在することになる。
- 講義中は監視カメラと教員に監視されている。また演習室の PC も監視されているため不正がしづらい。

理解が深まる

- 実習でわからないことがあると教員もしくは TA が個別に対応してくれる。
- 実機に触れながら行う実習ができる。実際に触りながらなので印象に残りやすい。
- 教員の話し方で圧や真剣さが伝わりやすいため情報の重要度がわかりやすい。
- 講義とは関係のないことが監視されているためやりづらい。また、やることが無く、暇を持て余していたりするため、なんやかんや話を聞く。

知らなくて困る

- 教室を利用する際のルールが教室によって異なる。
- 教室変更がある。
- 連絡事項がメールで来るため、定期的に確認する癖をつけておかないと気づかない。

担当教員によって変わる

- 試験の際の参照許可物の条件。
- 試験のタイミングや回数。
- 出席確認の取り方（出席レポート、出席確認課題、出席カード、学生証、出席を取らない）
  - － 出席確認課題は講義終了までに提出するため短い時間で取り組めるものになっている。
- 注意すること（飲食、私語、内職）

#### ■試験と長期休暇 試験の数で長期休暇に入る時期が決まる

- 試験はカンニングなどの不正が無いように監視されているため、公平。
- 試験は監視されていたり、自身の実力で挑むため緊張感がある。
- 配布資料は参照許可物になることが多い。そのため講義資料の紛失は試験の点に直結する。
- 試験をする講義が多いため、試験期間が長い。そのため長期休暇が短い。
- 台風などで休校があった場合はさらに短くなる。

#### ■資格

- 資格取得を目標とした講義や、講義中に有用な資格を紹介してくれる教員がいるため資格の情報が入りやすい。
- 資格取得時は受験料を大学が負担してくれる資格がある。
- 施設に張り出されている掲示物から、資格の情報を得る。

■**荷物** 学生の荷物は必須なもの、快適に過ごすために持っておきたいものがある。

- 持ちもの

- 必須

- その日に使う教科書、財布、鍵、筆記用具、スマートフォン、

- 一部必須

- PC、定期券、バイト道具、電卓、雨具

- 快適にする

- モバイルバッテリー、クリアファイル、バインダー、イヤホン、個人的読書用の本、携帯ゲーム機、USB メモリ、化粧品、マスク、トランプ、ティッシュ、ハンカチ、個人的な勉強用の参考書、充電器

- テスト期間は参照許可物

- 教室や施設を利用した際に物を紛失することがある。紛失したものは捨てられたり、誰かに拾われたり、どこかの事務室に届けられたりする。
- 遺失物が届けられる場所が何か所かあるため、確認しに行くときに不便。

■**学生感** 学生感を感じるには演習や課題のような講義に関することや、研究を行うことと、それらを行う上で広がる交友関係によるものである。

### 3.6.2 文章化-非対面

非対面の文章化を下記に記す。

■**オンライン講義** 通学時間が無く、空きコマの時間には好きなことができる。多くの講義がオンデマンドで受講できるため、好きな時間に受講できる。そのため自由に使える時間が多い。また資料が充実しているため復習がしやすい。勉強に意欲的な学生は自主的に勉強をし、その時間も対面と比べ多くとることができる。講義の復習や課題のクオリティを高めることができるため、成績が良くなる。また多くの時間が取れるため資格取得のための勉強もやりやすい。オンライン講義は自主的に勉強をする学生と、そうでない学生との学力の差が対面時より大きくなる。

#### 受講環境

- 講義の配信画面、講義資料、作業ウィンドウを表示して受講するため画面が広くないと不便。
- 画面が小さく、講義で使用するソフトが使用できないかもしれないスマートフォンでの受講は困難。
- 複数のウィンドウを同時に開いたり、会議アプリを使用するため、それらをスムーズに処理ができる性能を持った PC が必要。
- 講義の配信や、オンデマンドで講義動画を視聴するため整った通信環境が必要になる。
- 通信量が多いため Wi-Fi の利用が望ましい。
- 講義資料が手元に欲しかったり、図形を印刷した資料に手書きで書き込み、写真で課題提出をする講義があるため、コピー機があると便利。
- 講義で使用するツールなどの環境を自分で整えなければならない。使用するツールや配信サービスは教科や、教員によって異なるため種類が多くなる。
- 講義では Linux のような無料のものから、office のような有料サービスも使用する。有料サービスは無料の範囲での利用になることが多いが、使いづらい。
- 講義中に手書きで文字を書くことが少なくなるため、ノートや筆記用具をほとんど使わなくなる。

#### 受講しやすい

- 見えやすく、クリアに聞こえる環境で撮影された配信を見るため、目が悪くて見えないや、耳が悪くて聞こえないといったことが無い。
- 雑談が無いため集中して受講できる。また学生の注意で授業がさえぎられることが無い。
- 講義資料に講義内容の全容や課題の概要が書いているため、講義の配信を見なくても何とかなる。
- 講義資料のダウンロード期間は長く設けられているため、資料の紛失で困らない。
- オンデマンドで受講できる講義はいつでも講義を見返すことができるため、復習がしやすい。
- 講義資料に全容が書いてあるため教科書を購入しなくても何とかなる講義がある。
- 対面と比べ必要になる物が少ない、また自室で受ける場合は必要なものは大体部屋にあるため忘れ物をせず、物を失くすことも少ない。
- 教科書の写真を送ってもらうことができるため教科書を買わなくても何とかなる。

#### 受講しづらい

- 同居人の生活音が聞こえたり、同居人が干渉してきたりする。
- 配信画面、講義資料、作業ウィンドウなど複数のウィンドウを開くためノート PC の画面では小さい。
- 通信環境が整っていないと配信が止まったり、解像度が悪くなり見えづらくなったり、音が途切れる。
- 講義資料の書き込みや、課題はほとんどの場合 PC で行うためタイピングが遅いと時間がかかり、講義に置いて行かれる。
- 講義資料に書き込みをする際に図や式を入れる場合、手書きと比べて時間がかかる。

## 弊害と欠点

- 質問の対応が文章や口頭のため、的確なアドバイスや指示がもらえない。そのためわかりにくい。
- 講義中にチャットで送った質問は気づかれにくいいため、対応が遅かったり、気づかれないことがある。
- 質問をしてもこちらの状況がうまく伝わらないため、対応がわかりにくかったり、雑だったりする。
- PC の設定のような個人的な不具合の場合は対応してもらえないことがある。
- 友人に質問をしても気づかなかったり、さぼっていたりする。
- 対面の講義があり、その前後に非対面講義がある場合は非対面授業を対面で受けたり、学校で非対面授業を受けたり、オンデマンドで受講しなければならない。
- 非対面授業を対面で受けると自由にできず、友人とも連携ができない。対面と非対面のどちらのメリットも薄れる。
- 講義内容や課題でほかの学生の進捗や躓いているところを知ることができないため、自分の進捗が順調かどうかや、自分が躓いているところでほかの学生も躓いているのかがわからない。
- PC で受講するためモニターを長時間見たり、椅子に座りっぱなしになる。そのため目や腰が疲れる。
- 講義の形式がデータで配布された講義資料に直接入力していくようなものが多いため文字を書かなくなる。そのため字が汚くなる。
- 気持ちの切り替えをするタイミングが無いため、プライベートのテンションのまま受講する。そのため勉強をする雰囲気にならない。

### 原因

- － チャイムが無いため気持ちの切り替えができない。またチャイムが無いと講義開始の時間がわからないため遅刻や、出席レポートの送信を忘れる。

### 弊害

- － 勉強する雰囲気にならないまま講義を受けると講義と関係のないことをするため、講義の内容を聞いていない時間が多くなる。
- 監視されていないため、講義に関係のないことをする。

### 講義に関係のないこと

- － 友人と会話
- － ゲーム
- － ほかの講義で出された課題
- － 講義とは関係のない課題
- － 荷物の受け取り

■**単位の取りやすさ** 講義のそのものの難易度は下がり、楽になった。講義自体は聞いているだけのものが多く、受講スタイルも自由で受けやすいものになった。同時に単位の取得の難易度も大きく変化した。試験を実施する講義は少なくなったが、試験の難易度は難しくなった。テストを実施しない講義は代わりに課題が多くなり、課題の難易度も難しくなった。非対面授業になり受講はしやすくなりはしたが、単位が取得しやすくなったかどうかは人それぞれだろう。不正をする場合は難易度は下がったように感じるが、まじめに受講する場合は単に取得の難易度は上がったように思う。非対面授業はまじめな学生が損をする形態かもしれない。

楽して受講できる

- 通学が無いため、遅刻しない。また多少であれば体調が悪くても受講できる。
- 通信環境と端末さえあればどこでも受講できるため、外出中や、実家に帰省中でも受講できる。
- オンデマンドで受講ができる講義が多いため好きな時間に受講ができる。
- 教員が講義資料の内容を話しているだけの講義が多い、それらは受講中の作業が無い関係のないことをしやすい。

試験

- 試験がオンラインの場合は試験中に自由に調べることができる。そのため参照許可物は無制限になっていることが多い。
- 監視が無いため試験中に不正がしやすい。友人と一緒に試験を受けたり、オンライン通話をつなぎながら受けることができる。
- 調べ放題、不正し放題の環境での試験になるためテストの難易度が上がり、難しくなっている。

課題

- 試験を実施せず、課題だけで評価する講義が多くなった。
- 評価方法の課題が占める割合が多くなったため、出席確認課題を含む課題の量が増加し、難易度が上がった。
- 課題のデータを友人からももらったり、譲ったりといった不正がしやすい。ただし、講義終わりまでに提出する課題は時間が短いため不正しづらい。
- 課題の難易度が上がったため対面時と比べ所要時間が長くなった。そのため提出期間も長く設けられている。
- 課題の提出期間が長く設けられているため、後回しにしがちになり、提出を忘れる。

■**自由時間** プライベートの時間が増えたため、ゲームや読書、旅行などの趣味やアルバイトに使える時間が増え、取り組みやすい。しかし、時間に縛りが少なくなったことで不規則な生活習慣になる。

- 通学が無いため通学時間がない。
- 空きコマや昼休みのような講義はないが学校に拘束される時間がない。
- オンデマンドで受講できる講義が増え、課題の提出期間は長く設けられている。そのため課題や受講するタイミングを柔軟に選ぶことができる。
- 通信環境と端末さえあればどこでも受講できる。
- 試験を15回目の講義中に行うことが増えたり、講義の評価項目に試験が無い講義が多くなったため、試験期間が短くなり、長期休暇が長い。

■**出費** トータルの出費は対面時と比べてかなり少なくなるだろう。通常通りアルバイトができていれば貯金が増える。

#### 出費減

- 交通費
- 実家暮らしの場合は昼食費
- 友人と遊ぶ予定が減るため外食費や交遊費
- 外出が減るため服や靴が少なくて済む

#### 出費増

- 自宅にいる時間が増えるため光熱費

■**外出をしない** 学校に行かなくなると人と話す機会が極端に少なくなる。大学でしか交流のない教員や先輩は仲良くなりにくくなる。そのため講義や課題の情報が得られなくなる。友人との予定が減るため連絡を取らなくなるため、友人から増える人脈が広がらなくなる。またグループワークが減るためそこからの交流も少なくなる。人との関わりが薄くなるため、身だしなみを気にしなくなったり、孤独になる。

#### おしゃれ

- 外出をしなくなるため人に合わなくなる。そのため身なりに気を使わない。
- 染髪やパーマ、髪型のセットをしなくなる。
- 服のレパトリーが少なくて済む、また着用する頻度が下がるため長持ちする。

#### 運動

- 通学や体育、部活動、サークル活動などの運動をする要因が少なくなったため、運動しなくなる。
- 趣味に使える時間で運動をすれば体力や筋肉がつき、健康的にはなるが、運動しなかった場合は肥満の原因になる。
- 外出が減るため怪我が減る。

#### 大学の施設

- 大学に行くことが無くなったため、キャリアセンターや図書館を利用しづらくなった。
- 「研究室では料理をしてはならない」のような利用制限がある。
- 大垣研究室にはコアタイムが無い。研究内容によっては自宅のできるため、ほとんど研究室に人が来ない。

■**オンライン就活** インターンシップや企業説明会、面接がオンラインで行われることがある。その場合、面接官が身なりを細かく見ることができない。そのためこれまでのような当たり前とされてる身なりでなくてもいいかもしれない。また見られていないところが多いため不正や手抜きができる。

身だしなみ

- 柄入りのスーツやシャツ
- ピアスの穴
- 室温の調整ができるため夏場のジャケットが楽。

不正、手抜き

- 面接時のカンペ
- 適性検査を自宅で受けられるため、不正ができる。

■**情報源** 大学の案内や講義の情報がメールからしか来ない。また就活生の場合は就活関係のメールもあるため、メールが多くなる。メールが多くなると重要なメールの見落としがある。またメールでの情報だとどうしてもいいメールとの違いが少ないため情報の重要度がわかりにくい。

## 4 仮説

対面と非対面の文章化の結果から仮説を立てる。“講義の質や取り組みやすさ”“理解度”“私生活や受講環境”の観点から学生が影響を感じているであろう要素を対面と非対面、それぞれ箇条書きで記す。また、非対面の仮説に関して、大学生感、大学生生活感がないというのは前提とする。

### 対面

- ルーティーンができる
- おしゃれをする
- 通学やキャンパス内の移動の時間や、空きコマの待ち時間が発生する
- 通学中のストレスは通学手段によって異なる
- 出費が多い
- バイトの時間が短い
- 人脈が広がりやすい
- 情報の学生なら eduroam を使う
- 質問がしやすく、質がいい
- 遅刻する
- PC は快適だがそのほかの環境は快適ではない
- 試験は不正がしづらく、実力勝負のため難しい
- 忘れ物、遺失物がある
- 持ち物が多い

### 非対面

- 安定した通信環境が必要
- ある程度の性能をした PC が必要
- 非対面授業は快適
- 質問はしやすいが回答の質が悪い
- 勉強をする雰囲気にならないためだらけやすい
- やる気が低下してそう
- 講義、試験、課題の三点からみて単位の取りやすさは大きく変化した
- 生活が不規則になる
- 自由に使える時間が多い
- 出費が少ない
- 遅刻しづらい
- 運動をしない
- 人脈が広がらない

## 5 検証

### 検証方法

Google フォームを用いたアンケートを実施した。

### 検証期間

アンケート期間は7月26日から9月18日とした。この時期に定めた理由は、前期の講義が終わるタイミングであり、非対面講義のシステムが確立された状態での受講を経験しているため、非対面講義のメリット、デメリットを知った状態で学生が臨む授業形態を調査できると考えた為。アンケート終了後、事前に導出しておいた仮説とアンケート結果を照らし合わせ、非対面の仮説の項目に沿って考察していく。

### 検証対象

本学科の1年生・2年生・3年生・4年生（18H・19H・20H・21H）を対象とし、任意参加で行った。プライバシー保護の観点から学生を特定することができる学校指定のメールアドレスは求めずに、設問の選択肢で学年の区別をする。また過年度生はアンケートの対象としない。111件の回答が集まった。

## 6 仮説に沿った結果と考察

18H から 21H の本学科の学生 111 名の回答をもとに仮説と照らし合わせ、考察する。非対面に関する仮説に沿って記述する。非対面を選んだ理由は、現在も非対面のため統計結果が理解しやすいと感じたからである。

“質問はしやすいが質が悪い”、“やる気が低下してそう”は今年の卒業論文「コロナ禍における学生の学習意欲及び生活環境への影響に関する実態調査 [2]」で同様の調査をしており、その調査結果とも比較を行う。

はじめに対面の講義の有無についての回答を図 10 に示す。92.8% の学生は前期に対面で行う講義があり、登校していたことがわかる。

対面での授業はありましたか

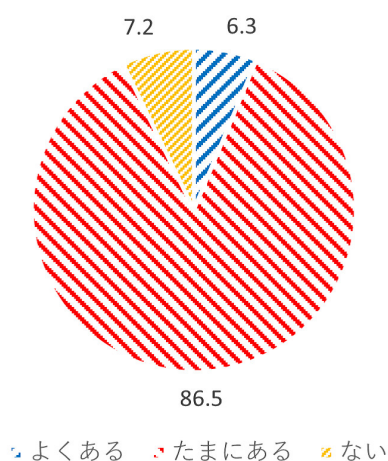


図 10 対面の授業があったかどうかの図。“よくある”が 6.3%、“たまにある”86.5%、“ない”が 7.2%。“よくある”は青で右上がりの太線、“たまにある”は赤で右下がりの太線、“ない”は黄色で右上がりの細線でそれぞれを示す。

## 6.1 人脈が広がらない

“同学科、同学年で新たに仲良くなった人はいますか”を図 11 に、“同学科、同学年の学生と授業時間外に会話をしたことがありますか”を図 12 に、“同学科内の先輩もしくは後輩と話しますか”を図 13 にそれぞれ示す。

図 11～図 13 をそれぞれ見る。同学年の学生とは親しくなる機会があり、授業時間外でも交流がある程度、存在することがわかる。しかし新たに仲が良くなった人と遊ぶかという質問に対して 73.9% の学生が対面、非対面ともにほとんど遊ばないと回答した。同学年の人脈への影響は少ないが、親密度への影響があるといえる。大学への登校が制限されていることから他学年との交流がほとんどないのは仕方がない。そのため他学年で親しい学生ができない。他学年の学生と会うことがないということは人脈が広がらないという点において影響がある。

同学科、同学年で新たに仲良くなった人はいますか

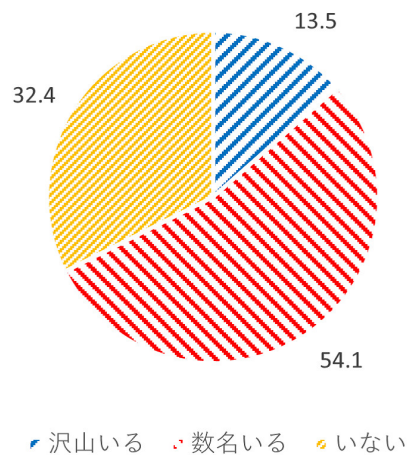


図 11 同学科、同学年で新たに仲良くなった人がいるかどうかについて。“沢山いる”が 13.5%、“数名いる”が 54.1%、“いない”が 32.4%。“沢山いる”は青で右上がりの太線、“数名いる”は赤で右下がりの太線、“いない”は黄色で右上がりの細線でそれぞれを示す。

同学科、同学年の学生と授業時間外に会話をしますか

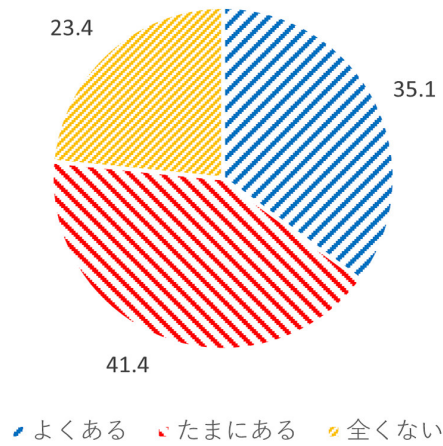


図 12 同学科、同学年の学生と授業時間外に会話をしたことがあるかどうかについて。“よくある”が35.1%、“たまにある”が41.4%、“全くない”が23.4%。“よくある”は青で右上がりの太線、“たまにある”は赤で右下がりの太線、“全くない”は黄色で右上がりの細線でそれぞれを示す。

同学科内の先輩もしくは後輩と話しますか

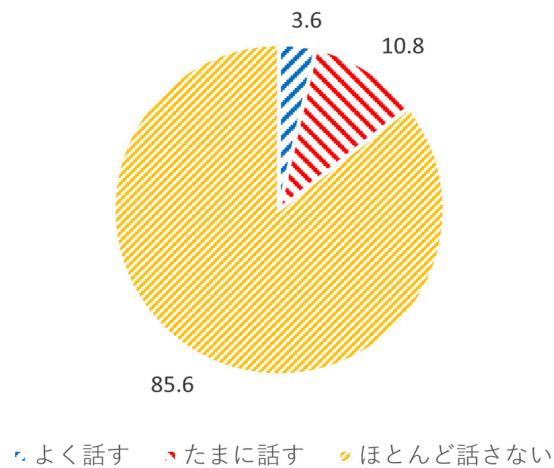


図 13 同学科内の先輩もしくは後輩と話すかどうかについて。“よく話す”が3.6%、“たまに話す”10.8%、“ほとんど話さない”が85.6%。“よく話す”は青で右上がりの太線、“たまに話す”は赤で右下がりの太線、“ほとんど話さない”は黄色で右上がりの細線でそれぞれを示す。

## 6.2 非対面授業は快適

### 受講環境

“学習するにあたってPCの性能は十分だと感じますか”を図14に、“非対面授業を受けるにあたって、通信環境は整っていますか”を図15に、“受講環境は快適ですか”を図16にそれぞれ示す。

学習をするにあたってPCの性能に困っていない学生は89.1%、通信環境に困っていない学生は96.3%だった。ほとんどの学生が非対面授業を受講するための設備には困っていないことがわかる。受講環境が快適かどうかを問う質問では92.8%の学生が“とても快適”もしくは“やや快適”と回答した。受講環境で困っていることについての質問では最も多かった回答は“環境音(20.4%)”だった。これらのことから非対面授業を受講するにあたって、多くの学生は快適な環境で受講することができているといえる。

学習するにあたってPCの性能は十分だと感じますか

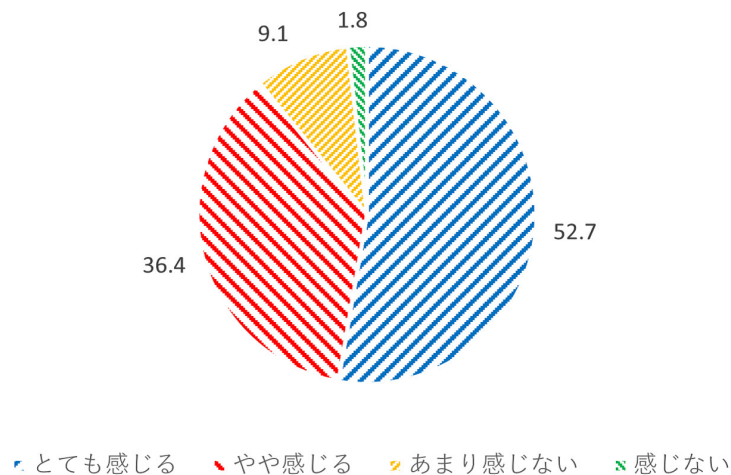


図14 学習するにあたってPCの性能は十分だと感じているかについて。約9割の学生が十分だと感じている。“とても感じている”が52.7%、“やや感じる”が36.4%、“あまり感じない”が9.1%、“感じない”が1.8%。“とても感じている”は青で右上がりの太線、“やや感じる”は赤で右下がりの太線、“あまり感じない”は黄色で右上がりの細線、“感じない”は緑で右下がりの細線でそれぞれ示す。

### 非対面授業を受けるにあたって通信環境は整ってますか

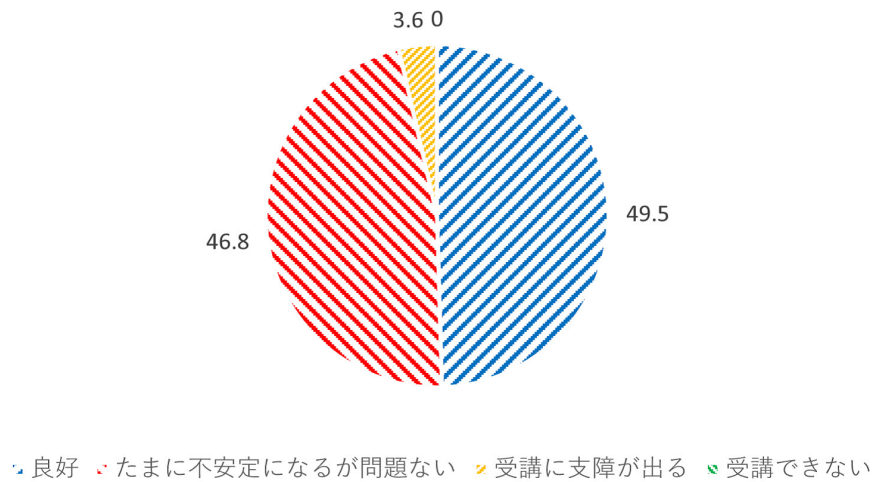


図 15 非対面授業を受けるにあたって通信環境は整っているかについて。9割を超える学生が良好、もしくは問題ないと感じている。“良好”が49.5%、“たまに不安定になるが問題ない”が46.8%、“受講に支障が出る”が3.6%、“受講できない”の回答はなし。“良好”は青で右上がりの太線、“たまに不安定になるが問題ない”は赤で右下がりの太線、“受講に支障が出る”は黄色で右上がりの細線、“受講できない”は緑で右下がりの細線でそれぞれ示す。

### 受講環境は快適ですか

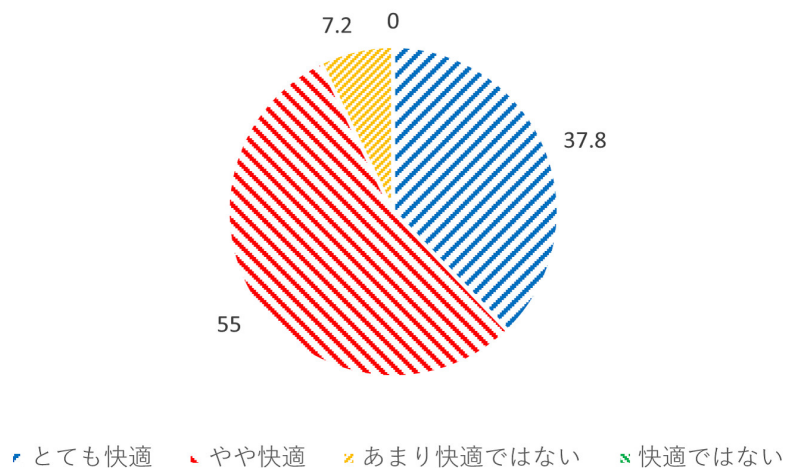


図 16 受講環境は快適かどうかについて。約9割の学生が快適だと感じている。“とても快適”が37.8%、“やや快適”が55.0%、“あまり快適ではない”が7.2%、“快適ではない”の回答はなし。“とても快適”は青で右上がりの太線、“やや快適”は赤で右下がりの太線、“あまり快適ではない”は黄色で右上がりの細線、“快適ではない”は緑で右下がりの細線でそれぞれ示す。

### 精神的な受講環境

“受講中に孤独感を感じましたか”を図 17 に、“非対面授業を受講中に拘束されていると感じますか”を図 18 にそれぞれ示す。

受講中の孤独感は 69.3% の学生が“あまり感じない”もしくは“感じない”と回答している。多くの学生は孤独を感じていない。受講中に拘束されていると全く感じない、あまり感じないと回答した学生は 75.7% だった。こちらも多くの学生は拘束されていると感じていない。これらのことから多くの学生が精神的な負担を感じずに快適に受講することができているといえる。しかし、25% から 30% の学生は精神的な負担を感じているため、非対面授業が精神的に快適であるかどうかは個人差がある。

受講中に孤独感を感じましたか

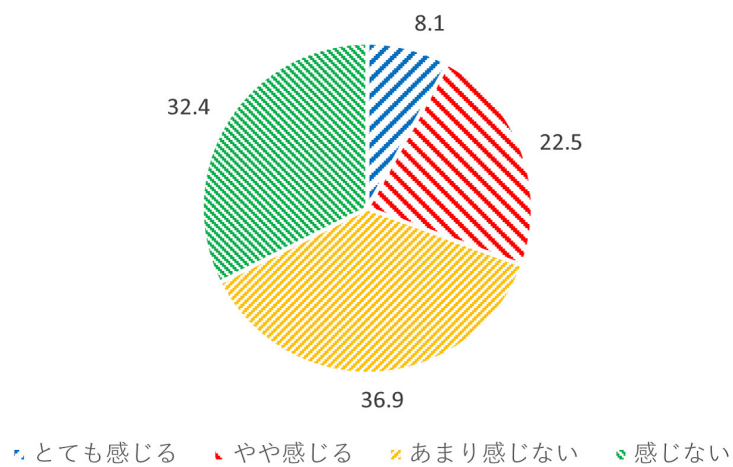


図 17 受講週に孤独を感じるかについて。約 7 割の学生が孤独を感じない、もしくはあまり感じないと回答している。“とても感じている”が 8.1%、“やや感じる”が 22.5%、“あまり感じない”が 36.9%、“感じない”が 32.4%。“とても感じている”は青で右上がりの太線、“やや感じる”は赤で右下がりの太線、“あまり感じない”は黄色で右上がりの細線、“感じない”は緑で右下がりの細線でそれぞれ示す。

非対面授業を受講中に拘束されていると感じますか

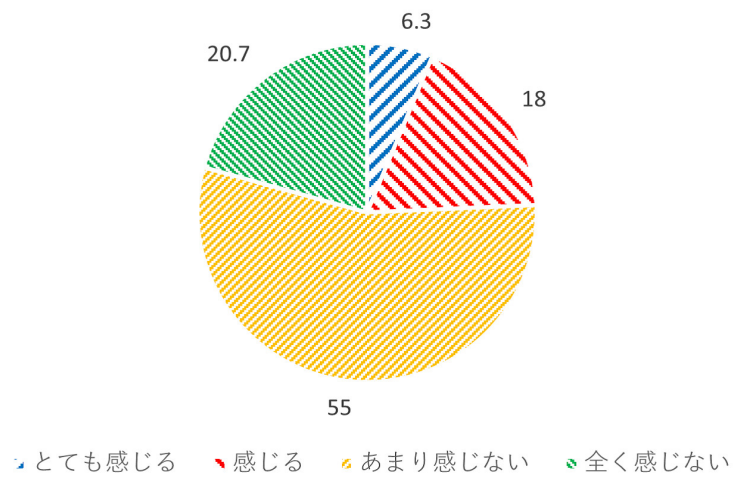


図 18 非対面授業を受講中に拘束されていると感じるかどうかについて。7割を超える学生が感じない、もしくはあまり感じないと回答している。“とても感じている”が6.3%、“やや感じる”が18.0%、“あまり感じない”が55.0%、“感じない”が20.7%。“とても感じている”は青で右上がりの太線、“やや感じる”は赤で右下がりの太線、“あまり感じない”は黄色で右上がりの細線、“感じない”は緑で右下がりの細線でそれぞれ示す。

## オンデマンド配信

“リアルタイムで一度受講し、オンデマンドで見返しましたか”を図 19 に、“オンデマンド配信で理解度が高まったと思いますか”を図 20 にそれぞれ示す。

オンデマンド配信を利用するタイミングに個人差はあるが、92.8%の学生が復習のために利用している。復習以外の利用として、一度目の受講を目的とした利用が 16.2%、遅刻や欠席をした講義の受講を目的とした利用が 31.5% だった。オンデマンド配信を利用することで理解度が“とても高まった”もしくは“高まった”と回答した学生は 86.5%と講義の理解に影響を与えている。またオンデマンド配信の利便性についての質問では 98.2%の学生が“便利”もしくは“とても便利”と回答した。これらのことからオンデマンド配信は復習や講義の理解を深めるために有用であるといえる。

リアルタイムで受講し、オンデマンドで見返しましたか

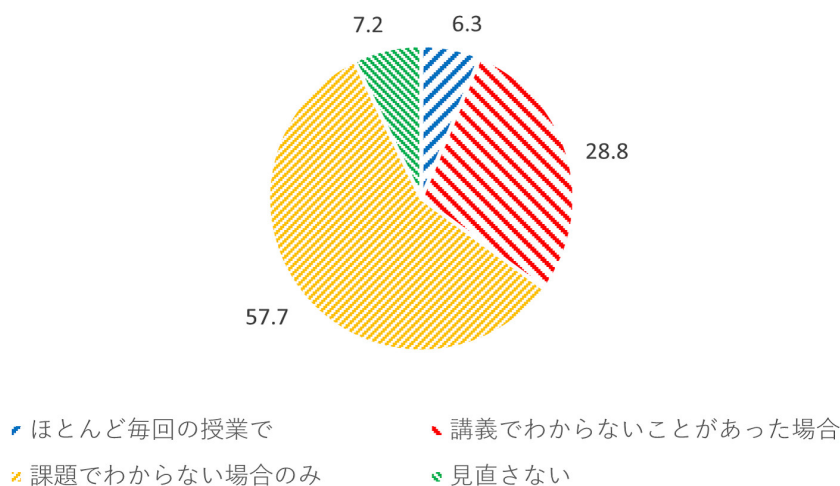


図 19 オンデマンド配信を利用して復習をしたかどうかについて。オンデマンド配信を利用して復習をしたことがある学生は 9 割を超える。“ほとんど毎回の授業で”が 6.3%、“講義中にわからないことがあった場合”が 28.8%、“課題でわからない場合のみ”が 57.7%、“見直さない”が 7.2%。“ほとんど毎回の授業で”は青で右上がりの太線、“講義中にわからないことがあったときのみ”は赤で右下がりの太線、“課題でわからない場合のみ”は黄色で左上がりの細線、“見直さない”は緑で右下がりの細線でそれぞれ示す。

オンデマンド配信で理解度が深まったと思いますか

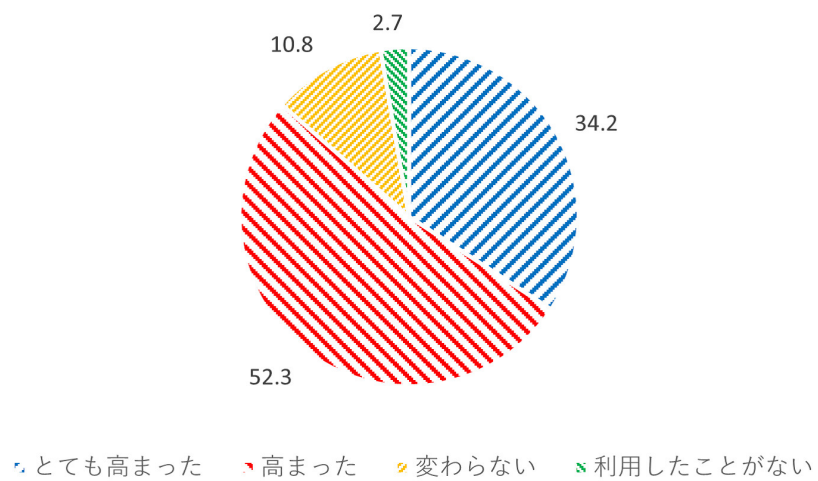


図 20 オンデマンド配信を利用したことで理解が深まったかどうかについて。8 割を超える学生が高まった、もしくはとても高まったと回答している。“とても高まった”が 34.2%、“高まった”が 52.3%、“変わらない”が 10.8%、“利用したことが無い”が 2.7%。“とても高まった”は青で右上がりの太線、“高まった”は赤で右下がりの太線、“変わらない”は黄色で右上がりの細線、“利用したことが無い”は緑で右下がりの細線でそれぞれ示す。

## 非対面授業

“非対面授業のほうが受講しやすかったですか”を図 21 に示す。

受講環境、精神的な受講環境、オンデマンド配信の三つの観点から、多数の学生は非対面授業が快適に感じているといえる。総合的な観点から非対面授業は“とても受けやすい”または“受けやすい”と回答した学生は 58.5% だった。回答した理由は、“通学や教室移動が無い”が大半だった。ほかにも少数ではあったが“周りの視線や印象が気にならない”“リラックスできるため集中できる”といった理由があった。“受けづらい”または“とても受けづらい”と回答した学生は 15.3% だった。回答した理由は、“集中できない”“友人にすぐに質問ができない”“エラーやラグ”など。

非対面授業の方が受講しやすかったですか

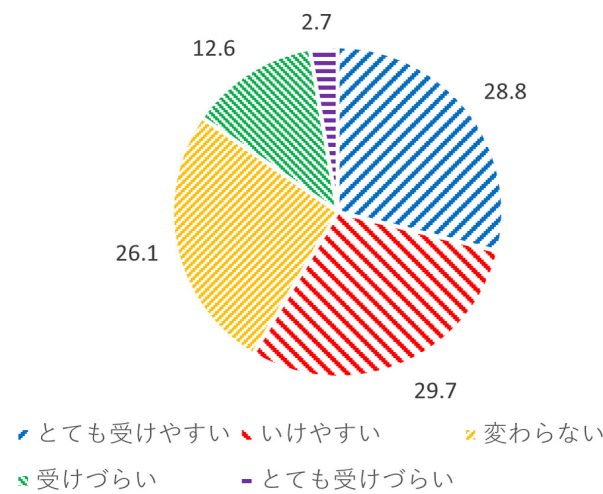


図 21 非対面授業のほうが受講しやすかったかについて。“とても受けやすい”が 28.8%、“受けやすい”が 29.7%、“変わらない”が 26.1%、“受けづらい”が 12.6%、“とても受けづらい”が 2.7%。“とても受けやすい”は青で右上がりの太線、“受けやすい”は赤で右下がりの太線、“変わらない”は黄色で右上がりの細線、“受けづらい”は緑で右下がりの細線、“とても受けづらい”は紫で横線でそれぞれ示す。

### 6.3 質問はしやすいが質が悪い

“非対面のほうが質問はしやすかったですか”を図 22、“質問の回答の質は良かったですか”を図 23 をそれぞれ示す。

質問のしやすさについて、ほぼ半数が変わらないと回答し、しやすいと回答した学生としづらいと回答した学生の割合に大きな差はなかった。回答の質について、“良くない”もしくは“とても良くない”と回答した学生は5.4%にとどまった。“良くない”“とても良くない”と回答した理由は、“回答の意味が分からない”“解決しない”“回答が遅い”“回答されない”があった。これらのことから非対面授業になったことで、質問のしやすさに影響はなく、回答の質は悪くないといえる。

#### 昨年の調査結果との比較

“質問のしやすさについて、昨年の調査結果との比較”を図 24 に示す。

昨年の非対面授業の方が質問がしやすかったかどうかについての調査では“しやすい”が15%、“変わらない”が40%、“しづらい”が45%だった。半数近くが“変わらない”と回答している点は本年と同様だった。しかし“しづらい”の回答については、昨年は半数近くを占めているのに比べ本年は25%程度に留まっている。このことから質問がしづらいつとを感じる要因が解消されたと考えられる。解消した理由は学生と教員が非対面授業に慣れたからだと思われる。

非対面のほうが質問しやすかったですか

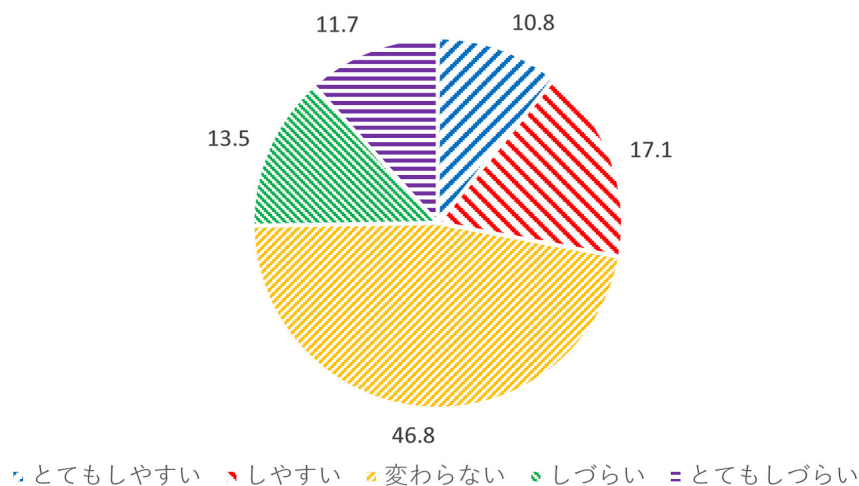


図 22 非対面授業のほうが質問がしやすかったかについて。約半数が変わらないと回答した。“とてもしやすい”が10.8%、“しやすい”が17.1%、“変わらない”が46.8%、“しづらい”が13.5%。“とてもしづらい”が11.7%。“とてもしやすい”は青で右上がりの太線、“しやすい”は赤で右下がりの太線、“変わらない”は黄色で右上がりの細線、“しづらい”は緑で右下がりの細線、“とてもしづらい”は紫の横線でそれぞれ示す。

### 質問の回答の質は良かったですか

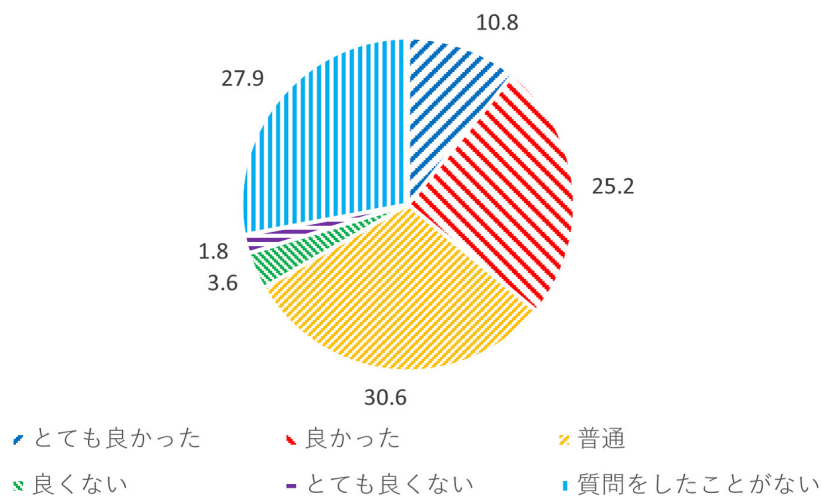


図 23 質問の回答の質について。“とても良かった”が10.8%、“良かった”が25.2%、“普通”が30.6%、“良くない”が3.6%、“とても良くない”が1.8%、“質問をしたことが無い”が27.9%。“とても良かった”は青で右上がりの太線、“良かった”は赤で右下がりの太線、“普通”は黄色で右上がりの細線、“良くない”は緑で右下がりの細線、“とても良くない”は紫で横線、“質問をしたことが無い”は水色の縦線でそれぞれ示す。

### 質問のしやすさについて昨年の調査結果との比較

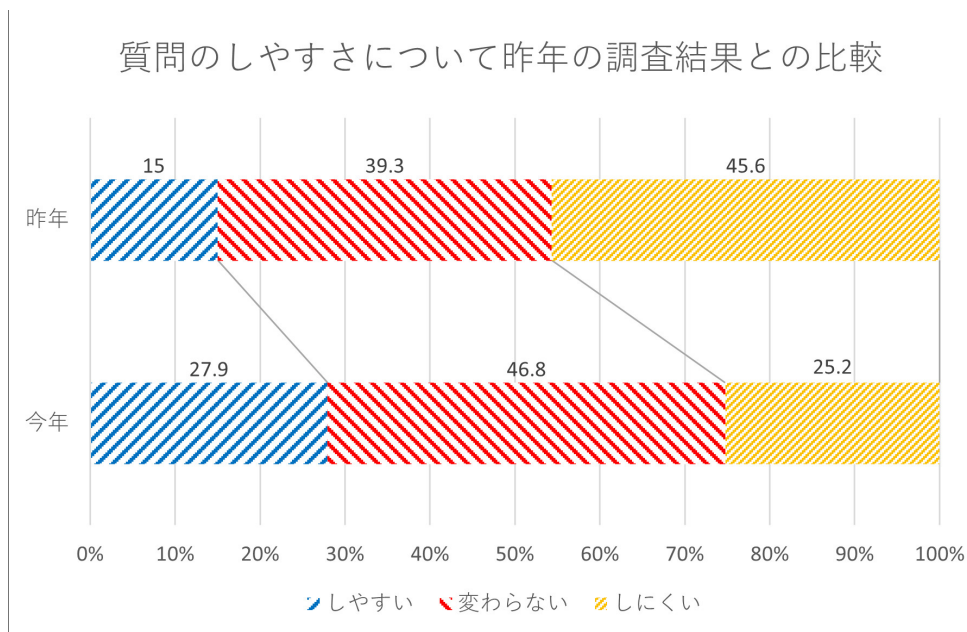


図 24 質問のしやすさについて、昨年の調査結果との比較。“しやすい”の昨年は15.0%、今年が27.9%、“変わらない”の昨年は39.2%、今年が46.8%、“しにくい”の昨年は45.6%、今年が25.2%。“しやすい”は青で右上がりの太線、“変わらない”は赤で右下がりの太線、“しづらい”は黄色で右上がりの細線でそれぞれ示す。

## 6.4 やる気が低下してそう

“非対面授業に対するやる気はどうでしたか”を図 25、“非対面授業の方が課題へのやる気はどうでしたか”を図 26 にそれぞれ示す。

非対面授業に対するやる気について、8 割を超える学生がやる気の低下を感じていない。また、課題へのやる気については 9 割を超える学生がやる気の低下を感じていない。これらのことから非対面授業になったことによる、授業や課題に対するやる気の低下は起こっていないといえる。

### 昨年の調査結果との比較

昨年の授業に対するやる気の傾向についての調査では“上がった”が 33.4%、“下がった”が 66.6%、課題に対するやる気の傾向についての調査では“上がった”が 33.3%、“下がった”が 66.7% だった。昨年は多くの学生の授業や課題に対するやる気が低下していたことがわかる。このことからやる気を低下させる要因が解消されたと考えられる。解消した理由は受講環境が整ったことや、非対面授業に慣れたことでストレスを感じるようになったからだと思われる。

非対面授業の方が授業に対するやる気はどうでしたか

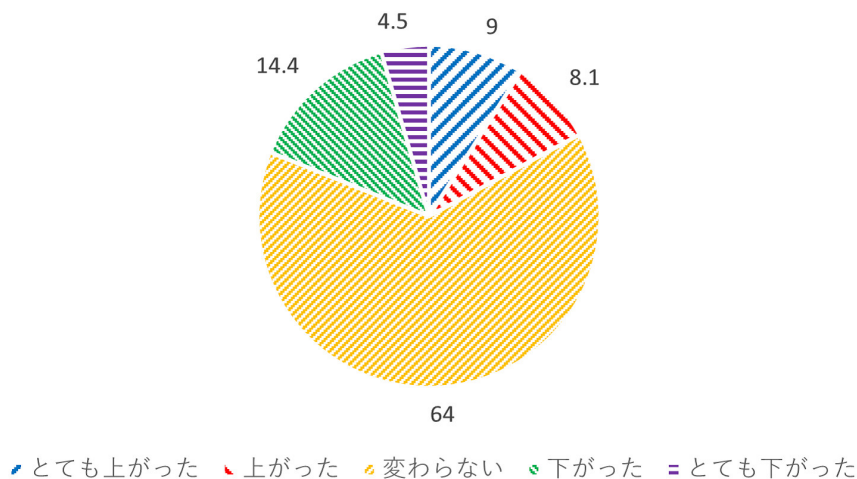


図 25 非対面授業に対するやる気について。“下がった”“とても下がった”と回答した学生は 18.9% だった。“とても上がった”が 9%、“上がった”が 8.1%、“変わらない”が 64%、“下がった”が 14.4%。“とても下がった”が 4.5%。“とても上がった”は青で右上がりの太線、“上がった”は赤で右下がりの太線、“変わらない”は黄色で右上がりの細線、“下がった”は緑で右下がりの細線、“とても下がった”は紫の横線でそれぞれ示す。

### 非対面授業の方が課題へのやる気はどうか

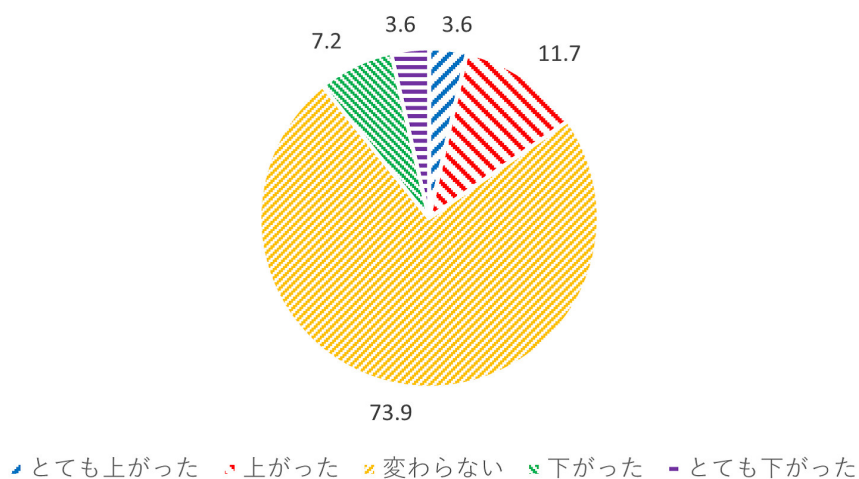


図 26 非対面授業時の課題に対するやる気について。“下がった”“とても下がった”と回答した学生は 9.8% だった。“とても上がった”が 3.6%、“上がった”が 11.7%、“変わらない”が 73.9%、“下がった”が 7.2%、“とても下がった”が 3.6%。“とても上がった”は青で右上がりの太線、“上がった”は赤で右下がりの太線、“変わらない”は黄色で右上がりの細線、“下がった”は緑で右下がりの細線、“とても下がった”は紫の横線でそれぞれ示す。

## 6.5 講義、試験、課題の観点から見て単位の取りやすさが大きく変化する

### 課題

“課題の量は?”を図 27、“課題は難しく感じますか”を図 28 にそれぞれ示す。

課題の量について、6割を超える学生が“とても多い”“多い”回答している。また“少ない”“とても少ない”と回答した学生は約1%だった。課題の難易度については、7割を超える学生が“とても難しい”“難しい”と回答している。また昨年と比較すると6割を超える学生が難易度が上がったと回答している。これらのことから非対面授業になったことで課題の量は増加し、難易度は上がったといえる。

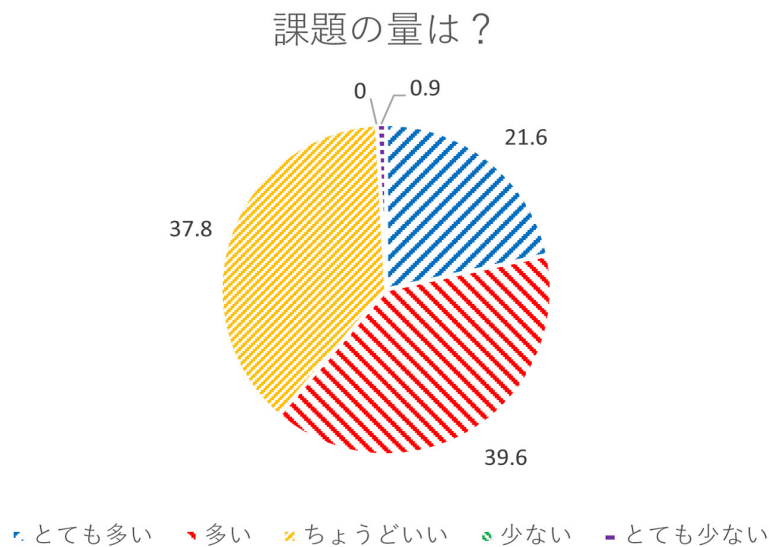


図 27 課題の量について。“とても多い”“多い”と回答した学生は61.2%。“少ない”“とても少ない”は0.9%だった。“とても多い”が21.6%、“多い”が39.6%、“ちょうどいい”が37.8%、“少ない”は回答無し。“とても少ないが”が0.9%。“とても多い”は青で右上がりの太線、“多い”は赤で右下がりの太線、“ちょうどいい”は黄色で右上がりの細線、“少ない”は緑で右下がりの細線、“とても少ない”は紫の横線でそれぞれ示す。

### 課題は難しく感じますか

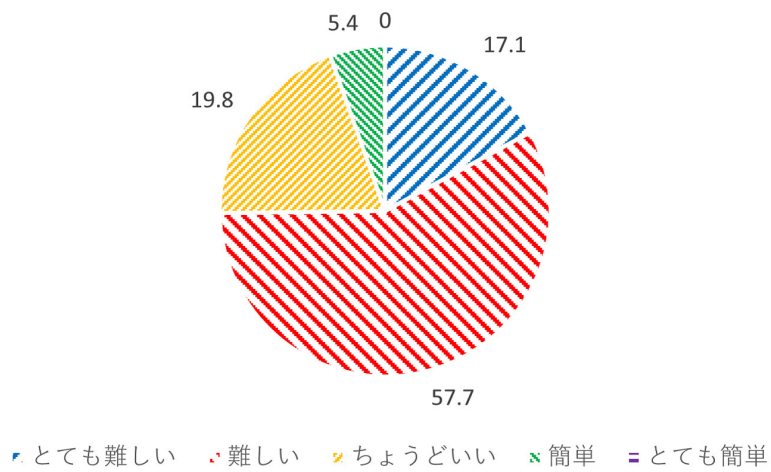


図 28 課題の難易度について。“とても難しい”“難しい”と回答した学生は 74.8% だった。“とても難しい”が 17.1%、“難しい”が 57.7%、“ちょうどいい”が 19.8%、“簡単”が 5.4%、“とても簡単”は回答無し。“とても難しい”は青で右上がりの太線、“難しい”は赤で右下がりの太線、“ちょうどいい”は黄色で右上がりの細線、“簡単”は緑で右下がりの細線、“とても簡単”は紫の横線でそれぞれ示す。

## 試験

“試験の難易度は?”を図 29 に示す。

試験の難易度は参照許可物の有無が大きく影響する。難しいと感じたのは6割を超える学生が回答し、そのうち54.3%が参照許可物有で難しいと感じていた。参照許可物については、参照許可物が無かったと回答したのは9.3%だった。これらのことから多くの試験で参照許可物があるがそれでも試験が難しいと感じる学生が多いといえる。

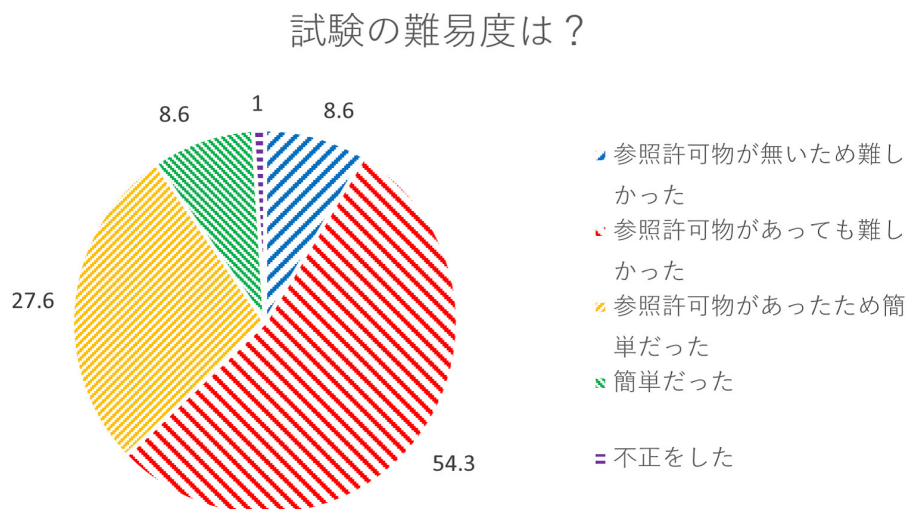


図 29 試験の難易度について。難しいと回答した学生は62.9%だった。“参照許可物がないため難しかった”が8.6%、“参照許可物があっても難しかった”が54.3%、“参照許可物があったため簡単だった”が27.6%、“簡単だった”は8.6%。“不正をした”が1%。“参照許可物がないため難しかった”は青で右上がりの太線、“参照許可物があっても難しかった”は赤右下がりの太線、“参照許可物があったため簡単だった”は黄色で右上がりの細線、“簡単だった”は緑で右下がりの細線、“不正をした”は紫の横線でそれぞれ示す。

## 成績

“成績の評価の比重について”を図 30 に、“単位は多く取得できたと感じますか”を図 31 にそれぞれ示す。

成績の評価の比重は課題が最も大きいと回答した学生が多かった。また成績の評価で比重が大きいと単位が取りにくいと感じることについての質問では試験が大きいと単位を取りにくいと感じる学生が多かった。これらのことから評価の際に、試験よりも課題の比重が大きいほうが単位を取りやすいと感じる学生が多い中、今年度前期は課題の比重が大きかったため、単位の取得がしやすかったといえる。

### 成績の評価の比重について

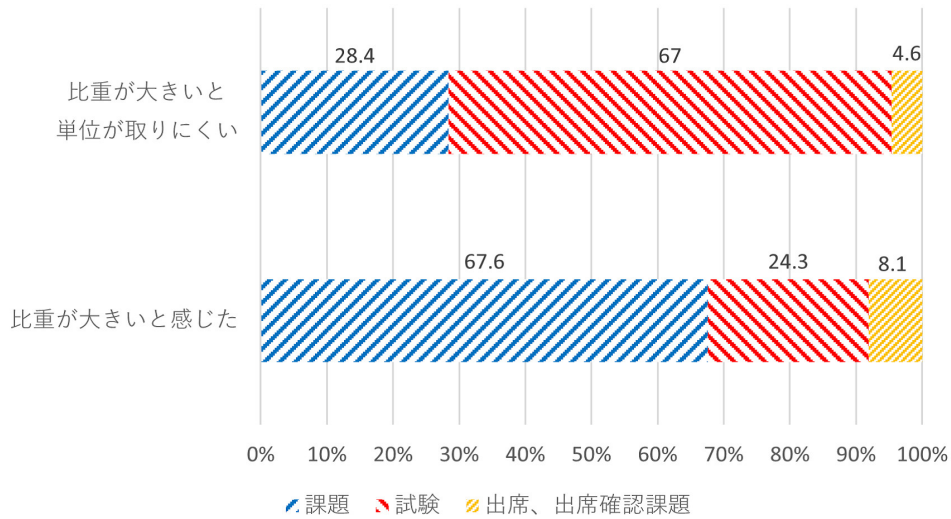


図 30 成績の評価で比重が大きいと単位が取りにくいと感じるものについて。“課題”が28.4%、“試験”が67.0%、“出席、出席確認課題”が4.6%。成績の評価で最も比重が大きかった物について。“課題”が67.6%、“試験”が24.3%、“出席、出席確認課題”が8.1%。“課題”は青で右上がりの太線、“試験”は赤で右下がりの太線、“出席、出席確認課題”は黄色で右上がりの細線でそれぞれ示す。

### 単位は多く取得できたと感じますか

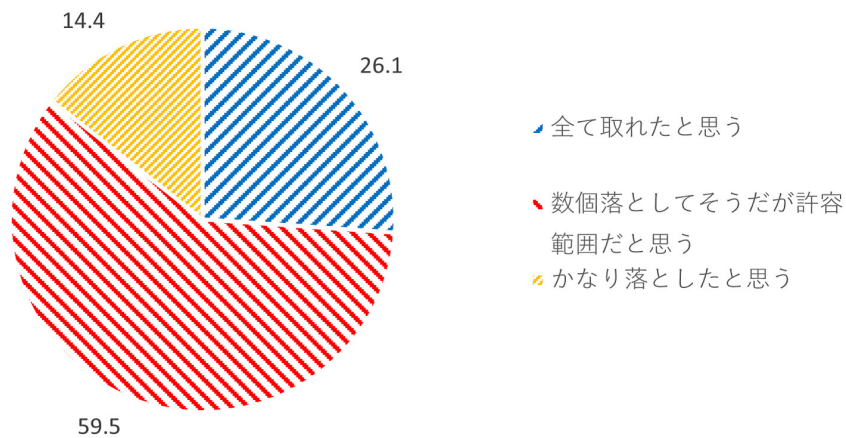


図 31 単位を取得できたかについて。“全て取れたと思う”が26.1%、“数個落としていそうだが許容範囲だと思う”が59.5%、“かなり落としたと思う”が14.4%。“全て取れたと思う”は青で右上がりの太線、“数個落としていそうだが許容範囲だと思う”は赤で右下がりの太線、“かなり落としたと思う”は黄色で右上がりの細線でそれぞれ示す。

## 6.6 今後の授業形態

“コロナ終息後の授業形態はどれがいいですか”を図32に示す。

コロナ終息後に望む授業形態は、最も回答された授業形態は“全面オンライン+オンデマンド”で32.7%だった。また全面オンライン、もしくは一部オンラインを望むと回答した学生は60%だった。オンデマンド配信を望む学生は対面、非対面合わせて81.8%だった。対面を望む理由として“大学生感が無い”“集中できる”が多く、オンライン授業を望む理由では“交通費や通学時間がないから”“オンラインのほうが快適に受講できる”が多かった。またオンデマンド配信を望む理由では“復習がしやすい”が多かった。

コロナ終息後の授業形態はどれがいいですか

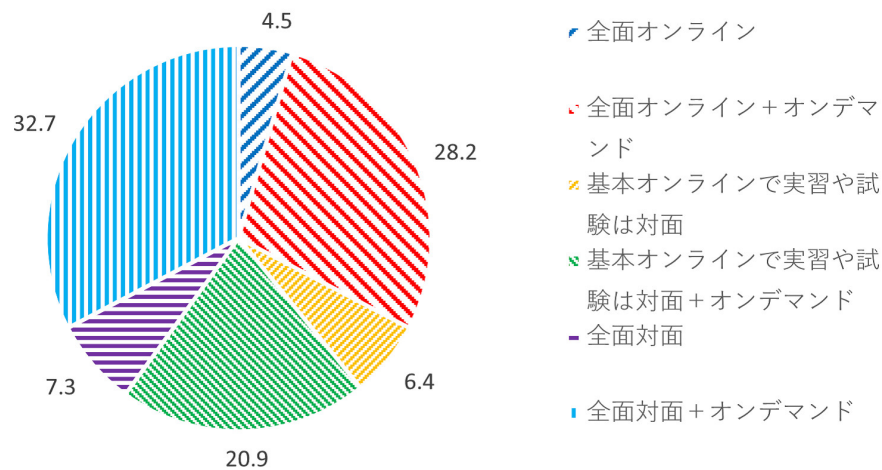


図32 コロナ終息後に希望する授業形態について。“全面オンライン”が4.5%、“全面オンライン+オンデマンド”が28.2%、“基本オンラインで実習や試験は対面”が6.4%、“基本オンラインで実習や試験は対面+オンデマンド”は20.9%、“全面对面”が7.3%、“全面対面+オンデマンド”が32.7%。“全面オンライン”は青で右上がりの太線、“全面オンライン+オンデマンド”は赤で右下がりの太線、“基本オンラインで実習や試験は対面”は黄色で右上がりの細線、“基本オンラインで実習や試験は対面+オンデマンド”は緑で右下がりの細線、“全面对面”は紫の横線、“全面対面+オンデマンド”は水色の縦線でそれぞれ示す。

## 7 まとめ

仮説を、“人脈が広がらない”、“非対面授業は快適”、“質問はしやすいが回答の質が悪い”、“やる気が低下してそう”、“講義、試験、課題の観点から見て単位の取りやすさが大きく変化する”とした。

### 結果

- 同学年の人脈の広がりに影響は少なく、新たに友人はできているが親密度はあまり高くない。また大学への登校が少ないため、他学年との交流は少なく、人脈は広がりづらい
- 非対面授業の受講環境に多くの学生が快適と感じている。また精神的な受講環境も多くの学生が快適に感じているようだ。しかし3割程度の学生は拘束感や孤独感を感じている。
- 試験よりも課題が多いほうが単位が取りやすい。
- 質問について、しやすさに影響はなく対面時と変わらない。昨年と比べるとしやすくなっている。回答の質は“悪くない”
- やる気は変わらない、昨年と比べるとやる気が下がる要因が解消された。

質問についてとやる気については仮説と異なる結果となった。このような結果となった要因の考察を下記に示す。

#### 質問はしやすいが質が悪い

質問がしやすさについては対面で質問をする際は挙手をしたり、授業後に教員を捕まえて聞く必要があるため敷居が高い。そのため周囲の目を気にしたり、コミュニケーションが苦手な学生は質問がしづらいただろうと考えた。ゆえに質問をオンラインで行う非対面授業ではそのような心配をせずに済むため、“質問がしやすくなる”という仮説を立てた。しかし、リアルタイムで聞きたい質問を非対面授業で行う場合はマイクをオンにして発言したり、チャットをする必要がある。これはほかの学生からも見えるので周囲の目が気になるという点では対面時と変わらない。そのため“変わらない”と回答した学生が多かったと考えられる。

回答の質について、非対面授業での質問の回答は、学生も教員も口頭で説明するため伝わりにくかったという自身の経験から“回答の質が悪い”と仮説を立てた。しかしリアルタイムな質問が多いと思われる演習を行う授業では、教員と学生が一对一で画面共有をしながら質問ができる環境が整えられた。そのため周囲からの干渉を受けることなく質問ができるようになり、質が良くなったと考えられる。

#### やる気が低下してそう

やる気については受講環境が悪いことからのストレスや、周囲の目がないため緊張感がなく、だらけてしまうと考えたために“やる気が下がる”と仮説を立てた。しかし多くの学生が受講環境は快適だと感じていたり、周囲の目がないため集中できたり、リラックスして受講することができるかと回答した学生が多かった。そのためやる気が下がることは無かったと考えられる。

非対面授業になったことで増えた自由時間を趣味の時間にあてている学生が多い。新しく趣味ができた学生が多く、趣味の時間が増加した学生が多い傾向がみられた。バイトの時間に関しては意外な結果となった。多くの学生が変わらず、減少した学生はかなり少なかった。コロナ禍のため多くの学生が減少すると考えていたからだ。予想を反する結果になった要因は不明。

コロナ終息後に望む授業形態についてのアンケートでは、コロナ禍前のような全対面の授業形態を望む学生が意外にも少数派だった。通学がないことや、環境が整ったことでオンラインのほうが楽と感じる学生が多かった。また“大学に行きたい”“大学生感を感じたい”と感じる学生は半数にとどまった。このことから大学生生活の

要素の中にキャンパスライフが含まれない学生が少なくないことがわかる。

## 8 今後の課題

今回のアンケートは学年を分けなかったため、対面授業を経験しているかどうかなどを踏まえることができなかった。アンケートを学年別に取りることができれば、学年ごとの事情や特徴を踏まえた傾向から各学年の細かい違いなども比較することができたかもしれないと考える。しかし、それでも学年を分けずに統計を取るべきだと判断したのは、アンケートの回答を任意で行うため、各学年で回答数にばらつきが出てしまうと考えたからである。

## 謝辞

本論文執筆及び研究作業等、研究室での活動の際以外にもご指示、ご協力いただきました大垣 斉准教授、情報教育システム研究室配属の学生、本学科生に深く感謝いたします。

## 参考文献

- [1] 文科省. R3 年度前期の大学等における授業の実施方針等に関する調査結果  
[https://www.mext.go.jp/content/20210702-mxt\\_kouhou01-000004520\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210702-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf)
- [2] 市川結香 (2020). コロナ禍における学生の学習意欲及び生活環境への影響に関する実態調査 2020 年度デザイン工学部 情報システム学科 卒業論文

## 付録 A 付録 1

### A.1 アンケートを始める前の注意書き

情報システム学科の 4 年生 18H020 岡本拓久です。こちらは 18H~21H の情報システム学科を対象とし、非対面授業の実態調査を目的とした卒業研究のアンケートになっています。ご協力お願いいたします。尚、ご回答頂きましたデータにつきましては今回の卒業研究でのみ使用し統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として、公表されることはありません。また、時期の指定が無いことに関しては、今年前期中の出来事全般を指し示します。記載がある質問はその指示に従って回答してください。質問の意図が分かりづらい場合は各質問の文頭に「今年度前期中は (に)」をつけてみてください。各項目の質問数が平均 10 個ほどあります。所要時間は 10 分から 15 分程度です。準備が整いましたら、次へを押してお進みください。

### A.2 アンケート本文

#### 人脈について

- 同学科内の先輩もしくは後輩と話しますか【・良くある・たまにある・ほとんどない】
- 同学科内に仲の良い先輩もしくは後輩はできましたか【・たくさんできた・数名できた・できていない】
- 同学科、同学年で新たに仲良くなった人はいますか【・たくさんいる・数名いる・いない】
- 今年度、学内で新たに仲が良くなった人と遊びますか（オンラインを含）【・よく遊ぶ・たまに遊ぶ・遊んだことが無い】
- 同学科、同学年の学生と授業時間外に会話をしたことがありますか【・よくある・たまにある・全くない】
- 同学科、同学年の学生と会ったことはありますか（ガイダンスを除く）【・よく会う・たまに会う・全くない】
- 大学の人には一人もあっていない（ガイダンスを除く）【・当てはまる・当てはまらない】
- 同学科内でオンライン食事会（飲み会も含）に参加したことはありますか【・良く参加する・たまに参加する・主催する・参加したことが無い・誘われたことが無い】

#### 授業について

- 対面での授業はありましたか【・良くある・たまにある・ない】
- 対面の授業がある日のほかの非対面の授業はどのように受けましたか【・教室・フリースペース・オンデマンド配信を利用して後日・受講しない・該当しない】
- 非対面授業の内、リアルタイムで行う授業はどの程度ありましたか【・80%以上・60%くらい・40%くらい・20%くらい・ほとんどない】
- 非対面のほうが受講しやすかったですか【・とても受けやすい・受けやすい・変わらない・受けづらい・とても受けづらい】
- なぜ受けやすいと感じましたか【記述】
- なぜ受けにくいと感じましたか【記述】
- 受講中に孤独感を感じましたか【・とても感じる・やや感じる・あまり感じない・感じない】
- 自分だけでできていないように感じたことはありましたか【・とても感じる・やや感じる・あまり感じない・感じない】
- 講義で使用するアプリのインストールや設定、操作方法などで困ったことがありますか。【・困っている・困っていたが解決した・困っていない】

- 講義で使用するアプリのインストールや設定、操作方法などを教員から教えてもらいましたか【・わかりやすく教えてもらった・教えてもらったがわかりにくい・手引書の配布のみ・特になかった】
- 授業を受けている雰囲気は感じられましたか【・とても感じる・やや感じる・どちらともいえない・あまり感じない・感じない】
- 非対面のほうが質問がしやすかったか【・とてもしやすい・しやすい・変わらない・しづらい・とてもしづらい】
- 質問することでわからない部分は解決しましたか【・すぐ解決した・多少苦戦はしたが解決した・解決していない・返答がない・質問をしたことが無い】
- 質問の回答の質は良かったですか【・とても良かった・良かった・普通・良くない・とても良くない・質問をしたことが無い】
- 良くない理由（複数回答）【・回答されない・回答されたが意味が分からない・こちらの質問が伝わらない・回答され、指示通りしたが解決しない・回答が遅い】

#### 受講環境について

- 非対面授業を受ける際に使用していた端末は【・自分の PC・共用 PC・スマホ・タブレット】
- 非対面授業を受講するのに PC は必須ですか【・とても感じる・やや感じる・あまり感じない・感じない】
- 自分用の PC はありますか【・ある・ない・購入予定】
- 学習するにあたって PC の性能は十分だと感じますか【・とても感じる・やや感じる・あまり感じない・感じない】
- 非対面授業を受講することを理由に PC を購入しましたか（購入予定も含）【・購入した・購入予定・検討中・考えてすらない】
- 受講中に使用する通信回線は【・モバイル回線・Wi-Fi・フリー Wi-Fi】
- 非対面授業を受けるにあたって、通信環境は整っていますか【・良好・たまに不安定になるが問題ない・受講に支障が出る・受講できない】
- ラグはありますか【・よくある・たまにある・ほとんどない】
- 非対面授業を受講することを理由に通信環境の改善をしましたか（改善予定も含）【・改善した・改善予定・検討中・考えてすらない】
- 普段はどこで受講しますか【・自室・自宅の共用スペース・実家（下宿生に限る）・学校・カフェ等の公共施設】
- 誰と受講しますか【・対面で友人・オンラインで友人・一人】
- 受講環境は快適ですか【・とても快適・やや快適・あまり快適ではない・快適ではない】
- 受講環境で困っていることはありますか「複数回答」【・PC の性能不足・モニターが小さい・通信が遅い・環境音・その他】
- 受講環境が悪いことを理由に非対面授業を対面で受講しましたか【・通信環境が適さないため・PC の性能が適さないため・環境音や同居人が原因・非対面授業を対面で受講したことが無い】

#### やる気について

- 非対面授業の方が授業に対するやる気はどうでしたか【・とても上がった・上がった・変わらない・下がった・とても下がった】
- 授業へのやる気が下がった要因は【・授業内容・友達・教員・図書館・学食・受講環境・慣れない・わからない】
- 非対面の授業でさぼったことがありますか【・よくある・たまにある・ほぼない】

- 非対面だと授業をさぼりやすいと感じますか【・とても感じる・感じる・あまり感じない・全く感じない】
- 非対面授業は対面授業と比べて、さぼりやすいと感じますか【・とても感じる・やや感じる・あまり感じない・感じない】
- 対面授業の方が授業に対するやる気が上がると思いますか【・とても思う・やや思う・どちらともいえない・あまり思わない・思わない】
- 受講中に講義とは関係のないことをしますか「複数回答」【・食事・軽食・一人でゲーム・友人とゲーム・講義とは関係のない課題・講義とは関係のない勉強・移動・身支度・読書（漫画を含）・SNS・雑談・寝る・掃除】
- 非対面授業の方が課題へのやる気はどうでしたか【・とても上がった・上がった・変わらない・下がった・とても下がった】
- 課題へのやる気が下がった要因は【・授業内容・友達・教員・図書館・学食・受講環境・慣れない、わからない】
- 大学生感を感じますか【・とても感じる・感じる・あまり感じない・全く感じない】
- 大学生感を感じたいですか【・とても感じたい・どちらかと言えば感じたい・どちらでもいい・どちらかと言えば感じたくない・感じたくない】
- 非対面だと課題提出の際の不正をしやすと感じますか【・とても感じる・感じる・あまり感じない・全く感じない】
- 友人に頼んで（頼まれて）課題や出席の代行をしてもらった（した）ことはありますか【・よくある・たまにある・まったく無い】
- ほとんど内容を聞いていない、理解していない講義はありますか【・多数ある・数個ある・ない】
- 資格の取得に向けた勉強をしていますか（予定も含）【・している・しようと考えている・何を取得するかは決まっていないが何かしたい・考えていない】

#### 行動の自由度

- 受講する際に自宅以外にどこで受講しますか（複数回答）【・カフェ・旅行先・電車、バス・実家（下宿生に限る）・友人宅】
- 授業後に何をしていましたか（複数回答）【・一人で課題・友人と課題・一人でゲーム・友人とゲーム・読書・外出（遊び目的）・外出・家事・運動】
- 一日の中で受講以外にしている時間が一番長かったものはなんですか【・ゲーム・運動・読書・勉強・バイト・動画鑑賞・家事】
- 趣味の時間は増えましたか【・とても増えた・増えた・変わらない・減った・とても減った】
- バイトの時間は増えましたか【・とても増えた・増えた・変わらない・減った・とても減った】
- 資格の勉強の時間は増えましたか【・とても増えた・増えた・変わらない・減った・とても減った】
- 新しく趣味や夢中になることができましたか【・できた・できてない】
- 大学に行きたいと感じましたか【・とても感じる・感じる・あまり感じない・全く感じない】
- 非対面授業を受講中に拘束されていると感じますか【・とても感じる・感じる・あまり感じない・全く感じない】

#### 授業の復習について

- リアルタイムでは受講せず、主にオンデマンドで受講することはありますか【・ほとんどそう・リアルタイムで課題の提出があるとき以外・遅刻や欠席をしたときのみ・しない】
- リアルタイムで一度受講し、オンデマンドで見返しましたか【・ほとんど毎回の授業で・講義中にわか

らないところがあったときのみ・課題でわからない場合のみ・しない】

- 授業の予習復習はしましたか【・よくする・たまにする・しない】
- オンデマンドでの講義の配信は便利ですか【・とても便利・便利・若干不便・不便・不要】
- オンデマンド配信で理解度が高まったと思いますか【・とても高まった・高まった・変わらない・利用したことが無い】

#### 課題について

- 課題の量は?【・とても多い・多い・ちょうどいい・少ない・とても少ない】
- 出席確認を兼ねた課題はありましたか【・よくある・たまにある・ない】
- 昨年と比べ課題の難易度は?【・とても難しい・難しい・変わらない・簡単・とても簡単】
- 課題は難しく感じますか【・とても難しい・難しい・ちょうどいい・簡単・とても簡単】
- 課題をするうえで不安に感じたことはありますか(複数回答)【・量・質問・期限・難易度・配点】
- わからない問題があったときはどうしましたか(複数回答)【・先輩に聞く・友人に聞く・調べる・教員に聞く・諦める】
- 成績評価で課題提出の割合は大きいと感じますか【・とても大きい・大きい・少ない・とても少ない】

#### 試験について

- 参照許可物がありましたか【・教科書・講義資料・教科書と講義資料・無制限・なし】
- 昨年と比べて試験の数は?【・増えた・減った・変わらない】
- 試験の難易度は?【・参照許可物が無いため難しかった・参照許可物があっても難しかった・簡単だった・参照許可物があったため簡単だった・不正をした】
- オンラインで試験を受ける際に不正をしましたか【・許可されていない参照許可物を見た・友人と協力した・代行・まっとうに受けた】

#### 授業の手ごたえについて

- 単位は多く取得できたと感じますか【・全て取れたと思う・数个落としてそうだが許容範囲だと思う・かなり落としたと思う】
- 成績が良かったと感じますか【・かなり良い・良い・悪い・かなり悪い】
- 講義内容が身についた、理解できたと感じますか【・良く理解できた・理解できた・あまりわからない、覚えていない・全くわからない、覚えていない】
- 成績の評価で最も比重が大きいと感じたのは?【・課題・試験・出席、出席確認課題】
- 成績の評価で比重が大きいと単位がとりにくいと感ずるものは?【・課題・試験・出席、出席確認課題】

#### 授業形態について

- 非対面授業に不満はありますか(複数回答)【・友人に会えない・授業がわからない・ラグい・課題が多い・試験が難しい・やる気が出ない・友達が増えない・実習が対面でできない・実習のためだけに学校に行く・学生感が無い・不満はない・その他】
- コロナ終息後の授業形態はどれがいいですか【・全面オンライン・全面オンライン+オンデマンド・基本オンラインで実習や試験は対面・基本オンラインで実習や試験は対面+オンデマンド・全対面・全対面+オンデマンド】
- 選択した理由